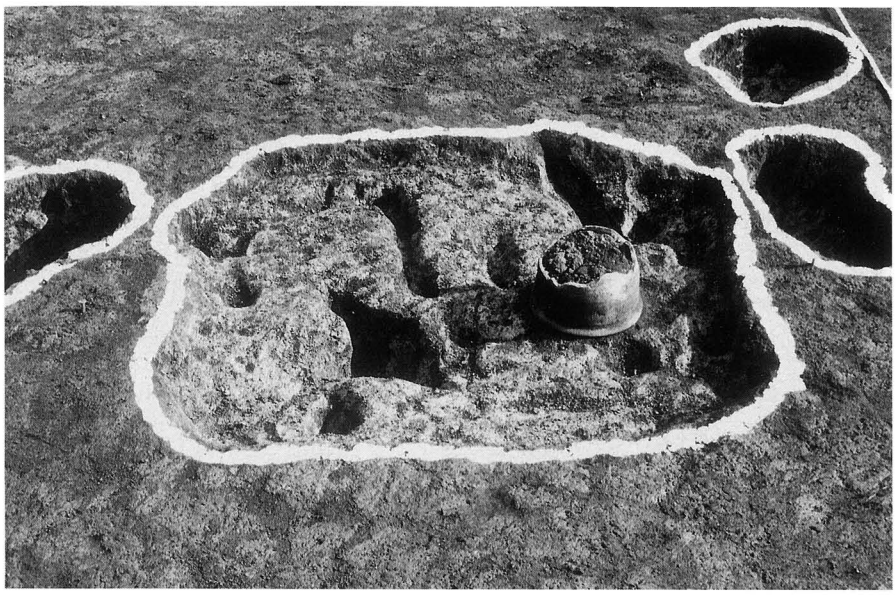
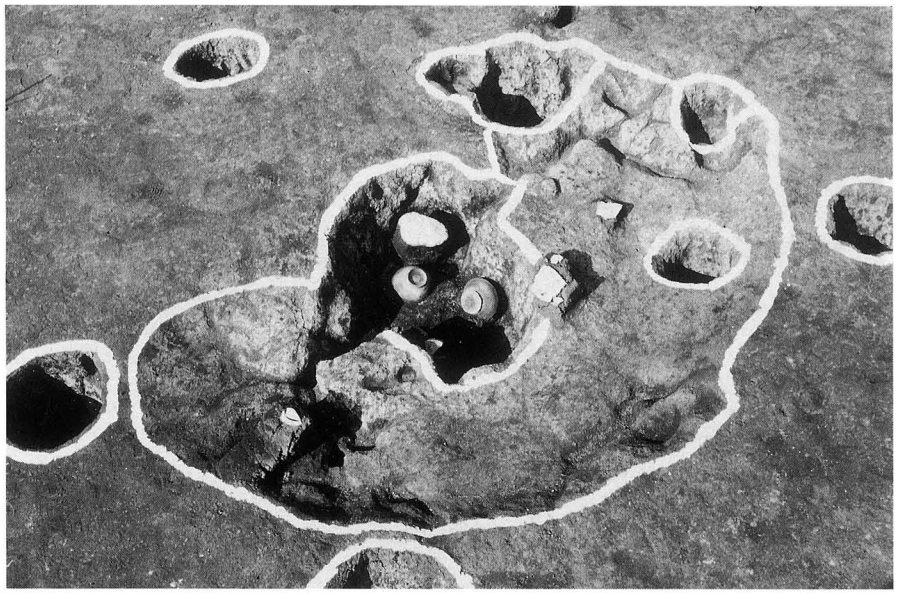
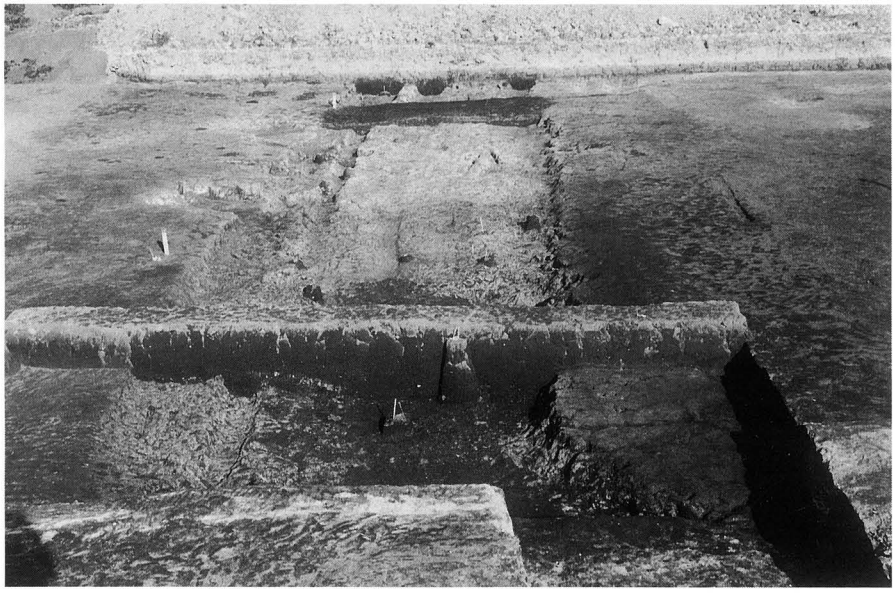
法光寺遺跡



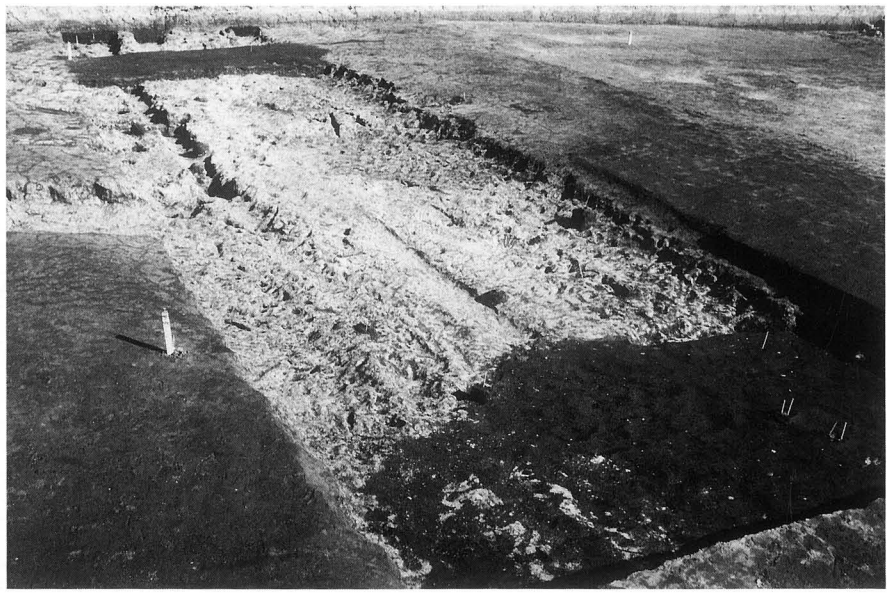
ＳＫ８
土師器甕出土状況
（南西から）



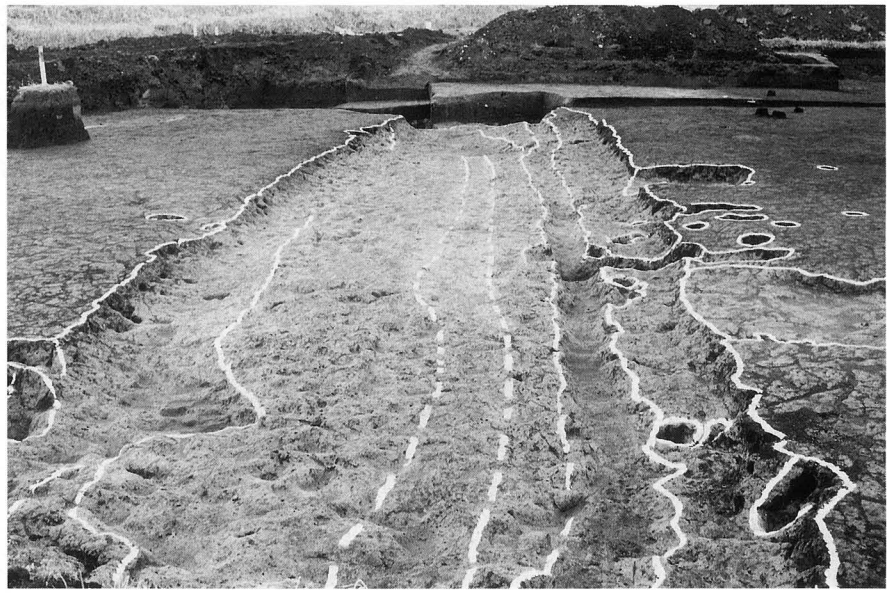
ＳＫ16
土師器椀出土状況
（南から）



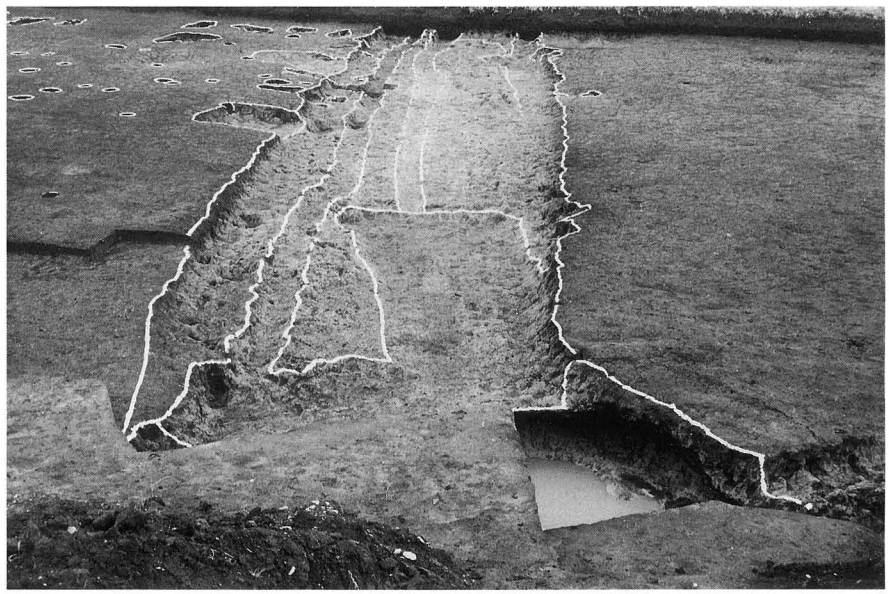
ＳＤ２
掘下げ状況
（西から）



ＳＤ２
掘下げ状況および
西部落ち込み検出状況
（北西から）



ＳＤ２
完掘状況
（東から）



ＳＤ２
完掘状況
（西から）

法光寺遺跡

ＳＤ２，ＳＫ18･19
掘下げおよび実測
作業風景
（南から）

ＳＤ２　西端部
ＳＫ18　掘下げ状況
（北から）

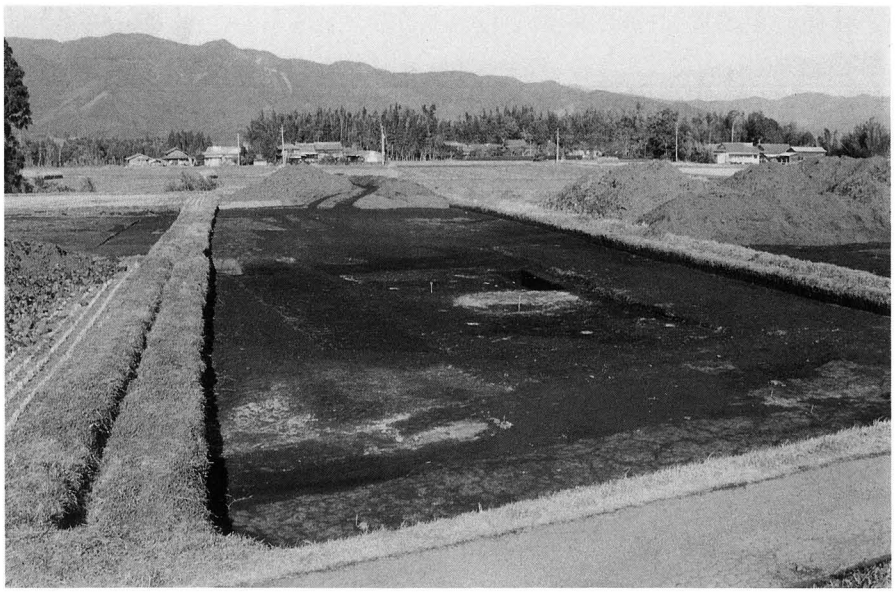
ＳＫ19
東壁崩落状況
（南から）

A区
遺構検出状況
（南西から）

C区
遺構分布状況
（南から）

C区
遺構検出状況
（西から）

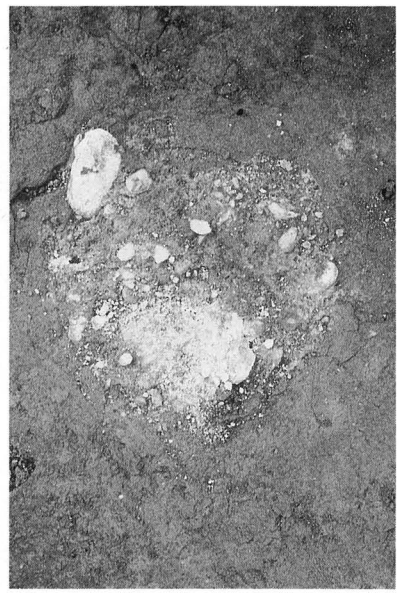
中満遺跡



Ｂ区
遺構検出状況
（南西から）

Ｂ区
遺構分布状況
（南から）

ＳＢ１・２および
遺構掘下げ状況
（南から）

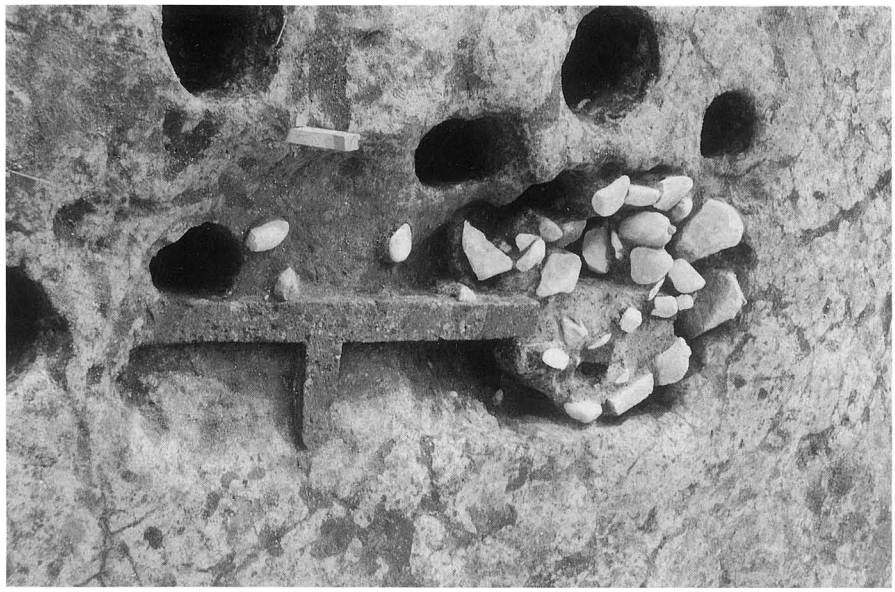


上左：ＳＢ３　ＰＰ３
　　柱痕部空洞状の状況
上右：ＳＢＩ
　　柱穴埋土の状況

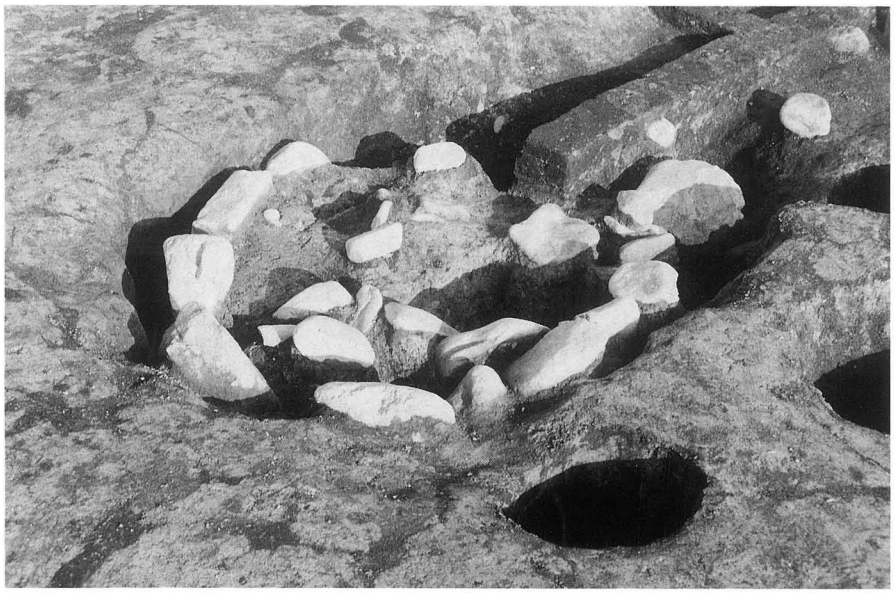
右：Ａ区　ＳＫ５
　　完掘状況

Ｂ区　ＳＫ14
半截状況
（西から）

中満遺跡



配石遺構
掘下げ状況
（南東から，右が南東）



配石遺構
配石部の状況
（西から）

配石遺構
配石部北半の礫
石臼転用の状況
（南西から）

法光寺遺跡 Ⅱ

凡　例

1．調査地域は『法光寺遺跡Ⅰ』に近いが、遺構番号は継続していない。

2．調査は県文化課の吉本主事にも協力を得たが、整理作業および報告書作成については中野が行った。

3．遺構の略号や表現方法は、前編とは統一していない。

目　次

Ⅰ．はじめに…… 323

Ⅱ．発掘調査…… 323

Ⅰ区

Ⅱ区

Ⅲ区

Ⅳ区

Ⅴ区

Ⅲ．まとめ…… 325

Ⅳ．総括…… 325

挿　図　目　次

第１図　調査区と法光寺寺域…… 323
第２図　発掘坑および主要遺構分布図…… 326
第３図　Ⅰ区遺構実測図……327～328
第４図　Ⅱ区遺構・北壁層序実測図……329～330
第５図　Ⅴ区遺構実測図……331～332
第６図　Ⅳ区溝状遺構・西壁層序図…… 333
第７図　Ⅴ区ＳＲ－01・西壁層序図…… 333
第８図　Ⅴ区西壁ＳＤ－08～10、ＳＡ－02、東壁ＳＡ－01層序図…… 334
第９図　ＳＤ－02北壁・ＳＤ－01層序図…… 335
第10図　Ⅰ・Ⅱ区出土土器類実測図…… 335
第11図　Ⅴ区出土遺物実測図…… 336
第12図　Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ区出土布目瓦・土器・石製品・鉄器実測図…… 337

図　版　目　次

図版１　調査地周辺航空写真
図版２　調査区全景
図版３　Ⅰ区全景、SD－01掘込状況、DB－01とSD－01の西コーナー
図版４　Ⅱ区全景、遺構検出状態、完堀全景
図版５　Ⅱ区完堀全景、Ⅳ区全景、SD－05とSD－06堀込状態
図版６　Ⅴ区全景、SR－01北側柱穴群、SA－01・02周辺柱穴内遺物出土状態
図版７　Ⅴ区北半部Ⅲ層遺物出土状態、SD－09上面遺物出土状態、SD－09完堀・西壁層序
図版８　Ⅴ区南半部Ⅲ層遺物出土状態、北半部遺構検出状態
図版９　Ⅴ区SR－01と側溝検出状態、完堀全景・西壁層序
図版10　Ⅴ区南半全景、SA－01断面層序、SA－02断面層序
図版11　Ⅴ区出土土師器、黒色土器
図版12　Ⅰ・Ⅴ区出土須恵器、調査区出土中世国産陶器
図版13　Ⅴ区出土瓦質土器、SD－12出土土師器、Ⅴ区出土布痕土器、調査区出土布目瓦
図版14　調査区出土輸入陶磁器、Ⅴ区出土鉄鎌、Ⅰ区SD－01出土砥石、Ⅱ区SD－04出土五輪塔残欠

表　目　次

表１　Ⅰ・Ⅱ区出土土師器観察表…… 335
表２　Ⅴ区出土遺物観察表…… 338
表３　Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ区出土布目瓦・石器・石製品・鉄器観察表…… 339

Ⅰ．はじめに

昭和60年度の遺跡群細分調査に伴う試掘調査[1]において柱穴や溝状遺構、布目瓦、10世紀前半頃の土師器を確認し、寺域が推定された。推定地は宅地と杉林、畑地が多く、周囲の水田とは一応の区別がつく。地権者による畑の深耕の際に巨石（礎石か）に当たったり多くの布目瓦が出土した話も聞いている。ただ、軒丸・軒平瓦は現在まで発見されていない。平成４年度、ＪＲ吉都線の北側の地区において発掘調査を実施し、平安～中世の遺構・遺物を検出。周辺の試掘調査においても中世～近世の遺構・遺物を検出しており、付近一帯が平安～中世の中心地であったと推定された（前編に報告）。

平成５年度の圃場整備事業対策地域にも寺域あるいは平成４年度調査区の集落の続きが推定されたため、関係機関と協議を重ねた。一帯の水田は高低差が少ないため切り盛りも僅かであることから、柵列や築地塀・溝状遺構などの境界を示す遺構の検出を主な目的として、道路と水路の建設予定地について発掘坑を設定した。なお、法坑寺跡推定地周辺は、圃場整備の対象外である。

Ⅱ．発掘調査

調査は５本の狭長な発掘坑を設定し、Ⅰ～Ⅴ区とした（第１図）。

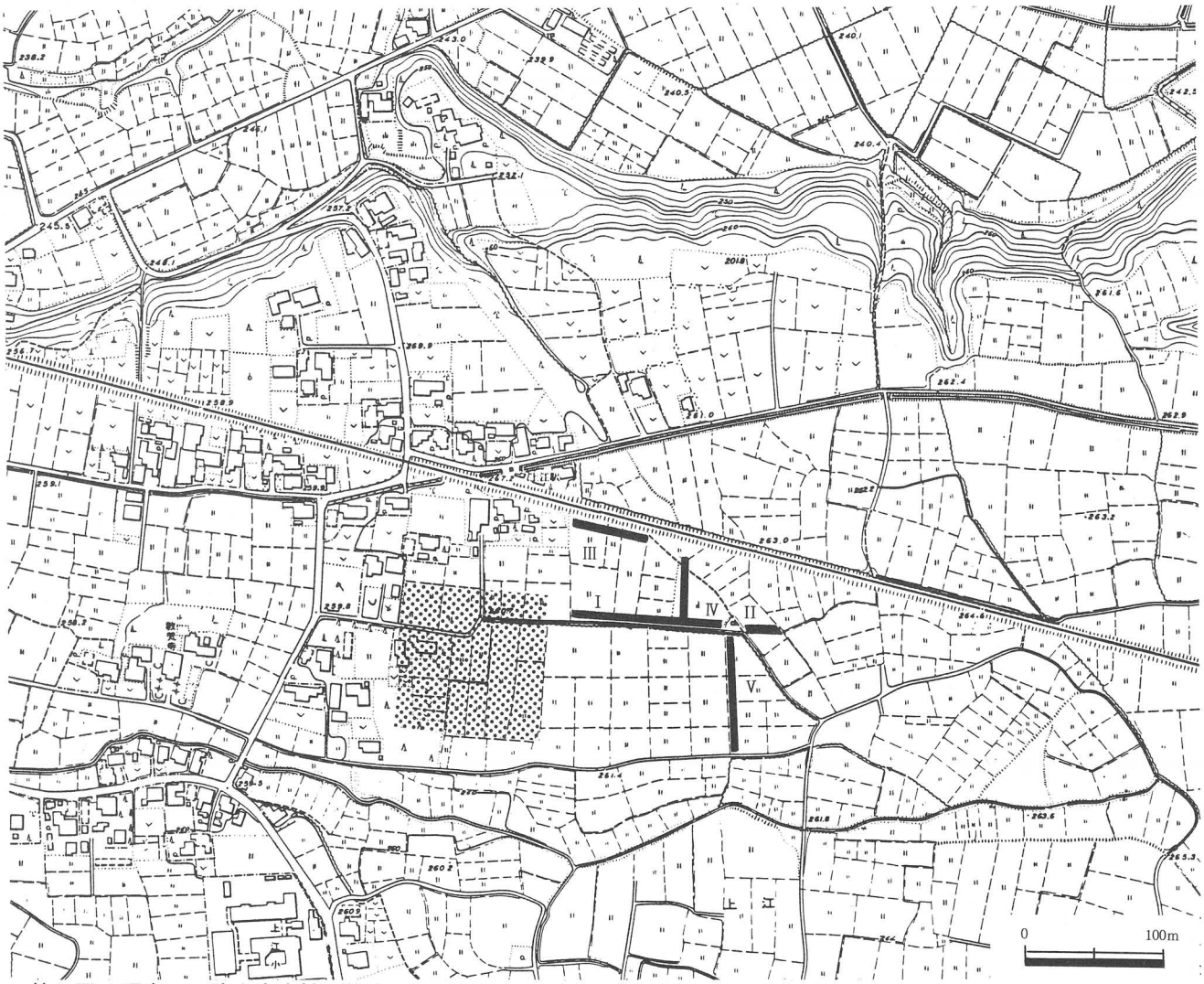
基本的層序

層序は上～Ⅰ層：耕作土、Ⅱ層：床土、Ⅲ層：黒灰色土（３層に細分）、Ⅳ層：アカホヤ火山灰に分別した。これより下位は通状の段丘と同様、茶褐色～黄褐色系火山灰、礫層、入戸火砕流（シラス）と続く。

Ⅰ区（第３図、図版３）

現農道に沿う、長さ80m、幅2.2～3.9mの発掘坑である。Ⅰ・Ⅱ層を剝ぐとⅣ層が現われ、遺構面となる。

遺構は少なく、約３mおきに並ぶ柱穴４（ＳＢ－01）のほか溝状遺構３条を検出した。柱穴は直径30cm、深さ40cm



第１図　調査区と法光寺寺域（推定，アミ目）

内外の同一規模のものである。ＳＤ－01は、長さ55mにわたって検出され、幅1.8～1.9m，深さ0.9～1.1mを測る。西端部は南に枝別れするが、西と北は追確認をしなかったため、不明確である。埋土は南から流入した状況を示し（第９図）、人頭大の礫を多く含む。出土遺物としては若干の土師器片、布目瓦、龍泉窯系の青磁碗、砥石などがある。

ＳＤ－02は幅0.9m、深さ0.2～0.3mの溝状遺構であり、北東から南西へ流れる。

ＳＤ－03は幅0.8～1.2m、深さ0.2m内外で、幅が一定しない。埋土は黒灰色土で、土師器の小破片が出土している。

II区（第４図、図版４）

幅10m、深さ0.44～0.62mの溝状遺構（ＳＤ－04）とその支線（幅0.64～1.04m、深さ0.3～0.4m）を検出した。

ＳＤ－04の埋土には砂粒が多く、文明ボラ（1476）と思われる白色パミスも多く含んでいる。出土遺物としては土師器片50点のほか、輸入陶磁器２点、石製品１点などがある。

III区

調査区の東端部において１条の溝条遺構（ＳＤ－07）を検出した。上面の幅は1.13m、下底は0.27m、深さは0.60mを測り、南側で２又に分かれる。出土遺物は無い。

IV区

ＳＤ－01の北9.0mと12.54mの地点で溝状遺構（ＳＤ－05、06）を検出した（第６図）。ＳＤ－05は幅0.40m、深さ0.25m内外、ＳＤ－06は幅1.22～1.27m、深さ0.49mで拳大の礫を含む。

北端部は旧谷で落ち込むが、近年“天地返し”によって撹乱されている。

V区

調査区の中で唯一、遺物包含層（IIIａ層）が遺存していた。III層以下は南へ緩やかに傾斜し、遺構面は３面（IIｃ・IIIａ・IIIｂ上面）あった（第８図）が、検出はIVａ上面のみで行なった。

遺構としては柱穴のほか、溝状遺構（ＳＤ－08～12）、石敷道路（SR－01）、竪穴状遺構（SA－01・02）がある。

ＳＤ－08は北端部の東西方向に流れるもので、幅0.78m以上、深さ0.06mを測る。

ＳＤ－09も東西方向で、幅2.03m、深さ0.79mを測る。北側は２段掘りになっている。埋土から土師器の細片が出土した。

ＳＤ－10はやや北向きで、幅1.34m、深さ0.36mを測る。埋土は砂質土や砂粒で、白色パミスを含む。出土遺物は無いもののIIｃ層から掘り込んでおり、近世の所産と思われる。

ＳＲ－01は側溝（SD－11・12）を有する石敷道路で、IIIｂ上面を遺構面とする。側溝を含めた上面の幅は3.33m、石敷面は一段（0.2～0.3m）低く、1.84～2.04mの幅がある（第７図）。北の側溝はさらに0.40mＵ字型に掘られ南側は深さ0.14～0.18mに浅く掘られている。礫は角礫～亜角礫が多く、北半分の密度が高い。埋没後も境界は踏襲され、水路や畦畔が累積している。畦畔Ａの上には現在の一筆境がある。

ＳＡ－01は１辺2.88m、深さ0.28mを測る。埋土には厚さ１～２cmの炭片や焼土層がある。

ＳＡ－02は一辺2.50m、深さ0.72mを測り、両端と中間に小柱穴がある。埋土にはアカホヤのブロックが多く混じり、廃絶後に埋め戻されたと推定される。

柱穴は60個余り検出したが、建物の復元には至らない。

出土遺物は調査区の中で最も多いが、遺構に伴う良好な資料が少ない。遺物の大部分はIII層上面～IIIａ層での出土で、北側では古墳時代と平安時代の土師器が混在、中ほどでは平安時代の土師器、黒色土器、墨書土器、布痕土器、布目瓦のほか鉄鎌が、南側では土師器のほか、東播系須恵器、輸入陶磁器・青磁、布目瓦が出土している。

ＳＲ－01の石敷内には青磁の底部片（第11図－33）があり、15世紀頃に埋没したことが推定される。ＳＡ－01・02も同じ遺構面であり、14～15世紀の構築と考えられる。

柱穴は粗・密があるものの一様に検出されたが、10～15世紀のものが混在すると考えられ、又、調査区が狭いため、建物の復元ができない。

註

（１）えびの市教育委員会『えびの市遺跡詳細分布調査報告書』1985

III．まとめ

Ⅰ区で検出された溝状遺構は、１辺55m前後の居館の周溝にあたる可能性があるものの、推定の域を出ない。

II区の溝は現在の地割（第１図）から推測すると、段丘の端に延びる旧谷に継がるものと推定される。この溝を含めて、中世になると、大規模な灌漑によって水を引き、計画的な地割が施工されたことが推定される。

中心的な道路は石敷で側溝を備えていた。ＳＲ－01から西へ135m行くと小畦畔が直交する。この小畦畔を東の境界として、南の旧谷を考慮すると方１町の寺域が想定される。ただ、南西部の杉林においては目立った境界が見られず、杉林全体を含めるならば、東へ50m、南へ25m、北へ15m拡大した方1.5町の寺域となる。

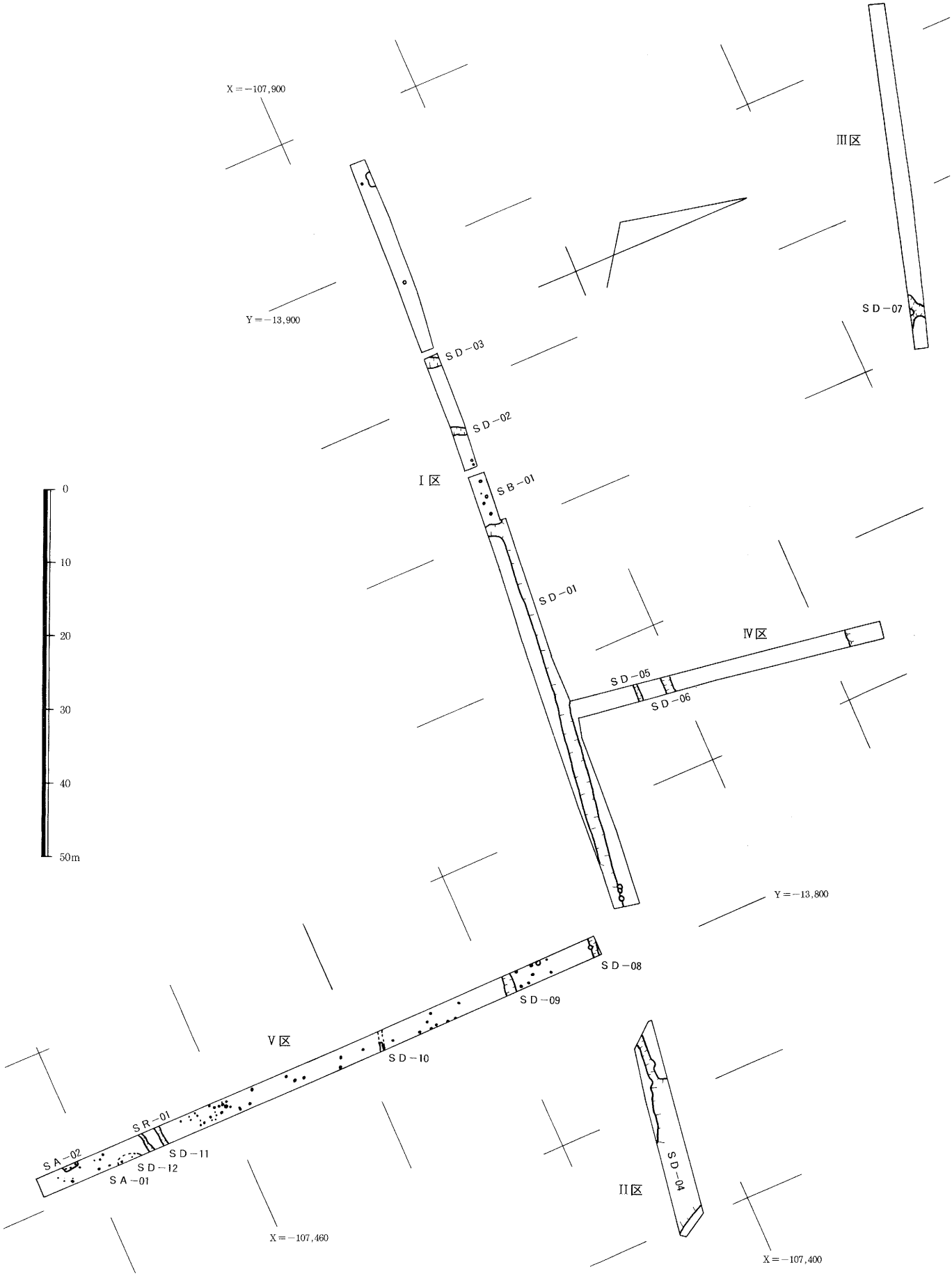
法光寺の創建や伽藍配置、寺域の問題は、今後の課題である。10世紀中ばに法光寺が廃絶しても、周辺の集落は中世まで存続しており、一帯の中心地だったと思われる。近世には全域が耕作地となり、集落は東の中満地区などに移動した。

Ⅳ．総括

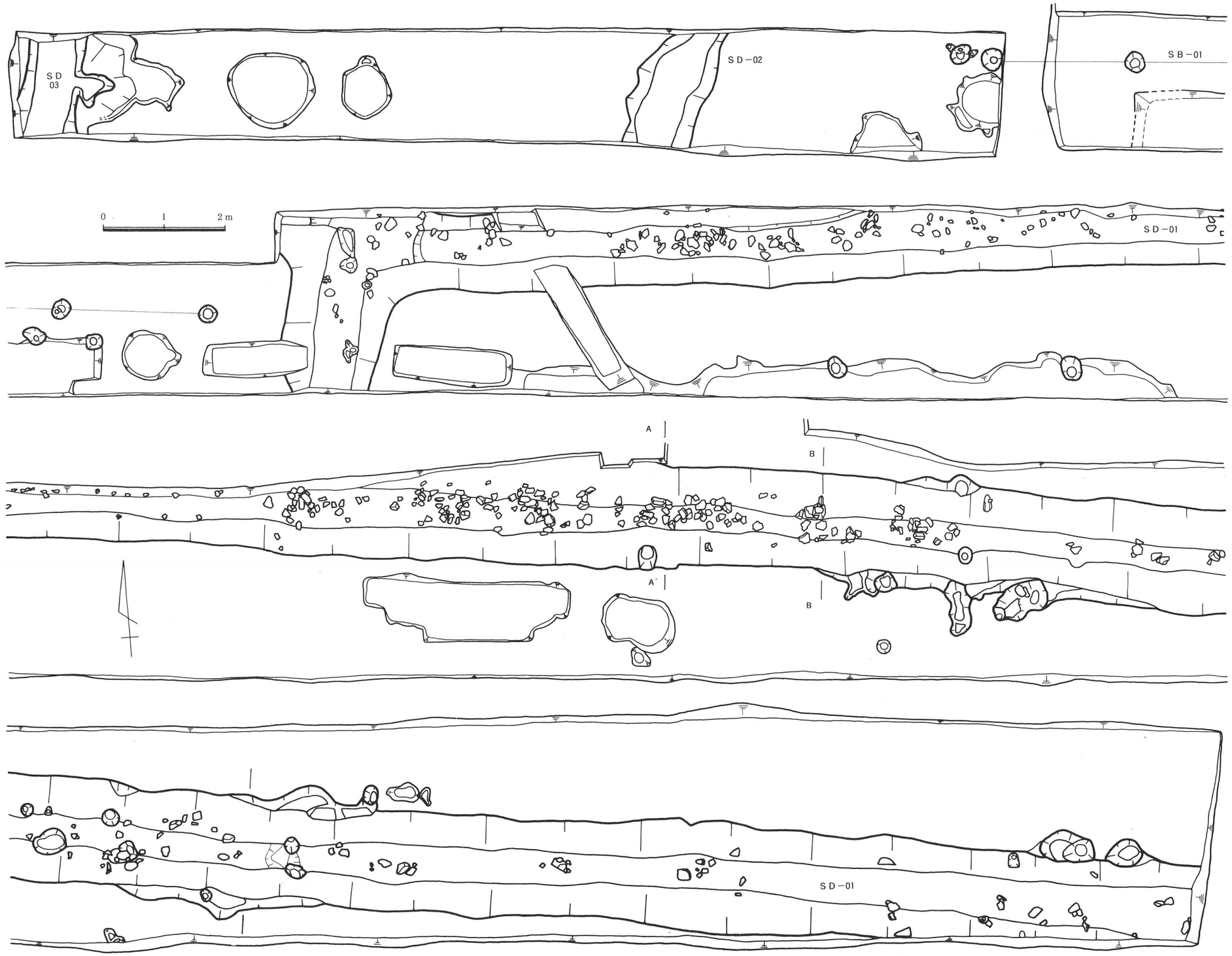
蕨・久見迫地区においては地下式横穴墓の存在が周知されていたが、墳墓を営んだ人々の集落は発見されず、六部市遺跡に期待された。結果は報告のとおりで、全く関連が無い。つまり、当段丘には湧水が無いために集落が営まれず、平安時代には細々と生活し、中世後半になって灌漑・開墾が進んでいった様子が伺える。開墾が広がると周落は微高地や縁辺に移動し、現在に至る。

弥生時代と飛鳥～奈良・平安初期には断絶がある。この現象はどの段丘においても同じであるが、おそらく、川内川が安定したため、集落は氾濫原に降りて、肥沃な耕作地で生業していたのではないだろうか。

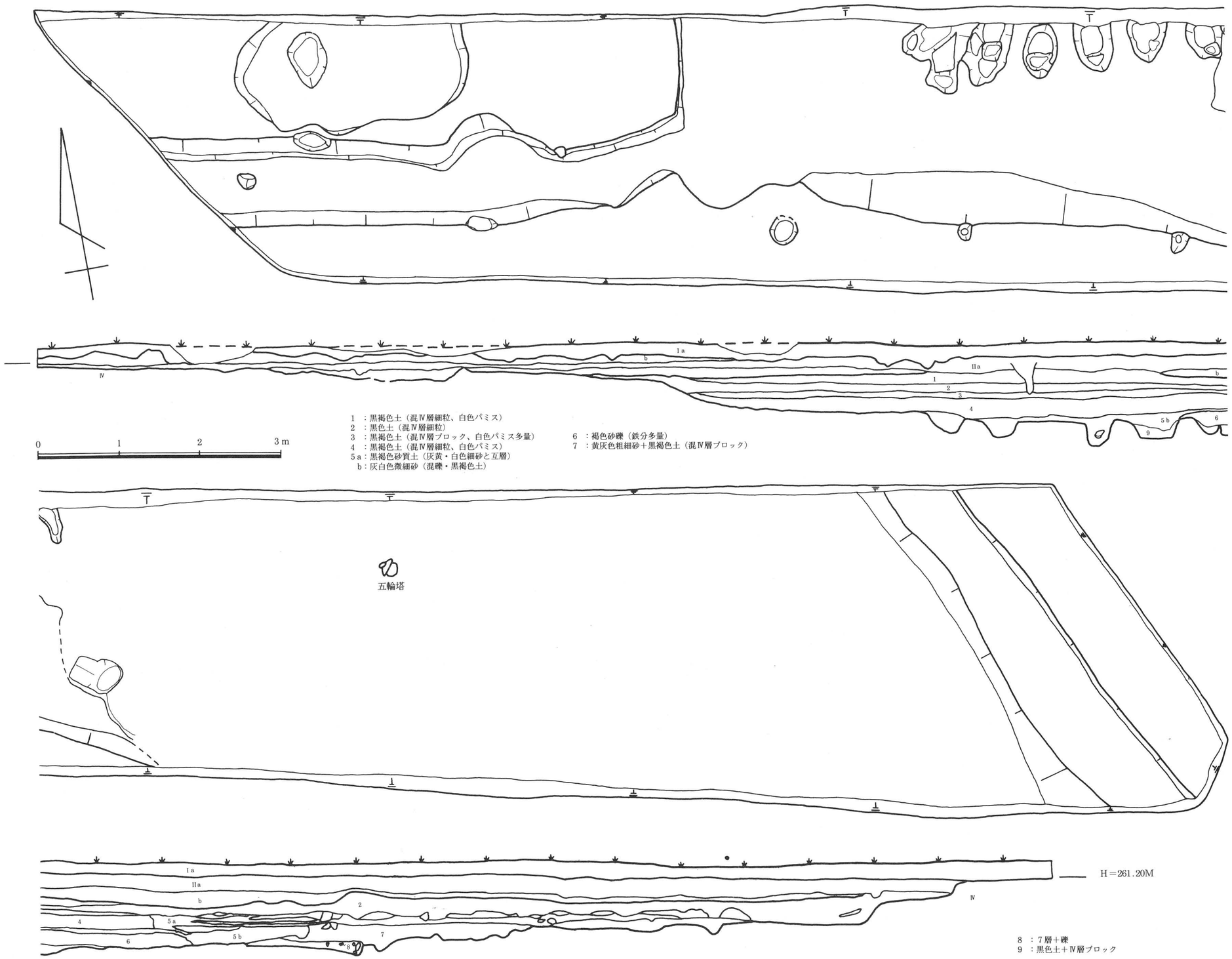
横口式土壙墓と地下式横穴墓との継がりや墳墓群の構造・変遷といった問題も、今後の課題である。



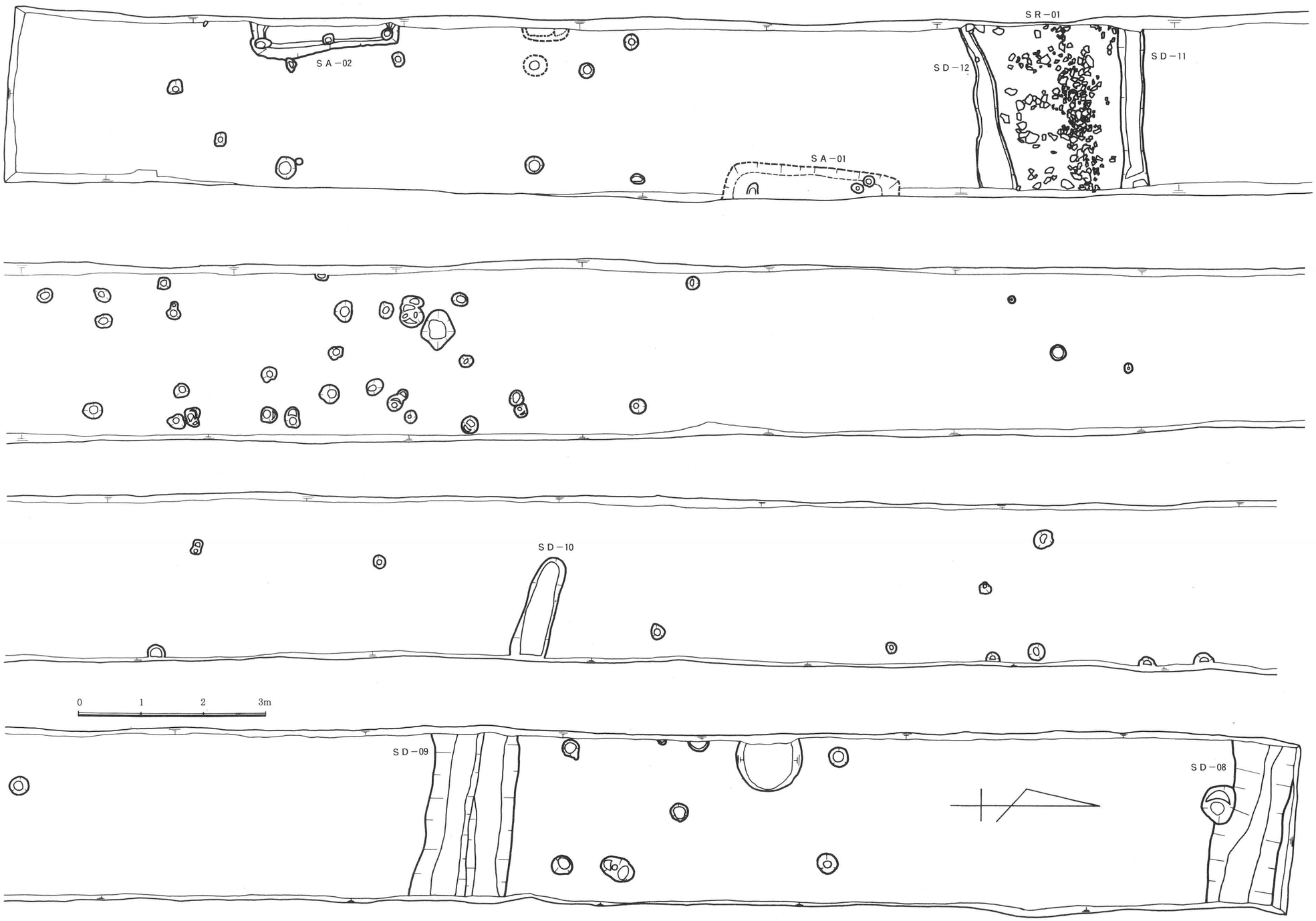
第２図　発掘坑および主要遺構分布図



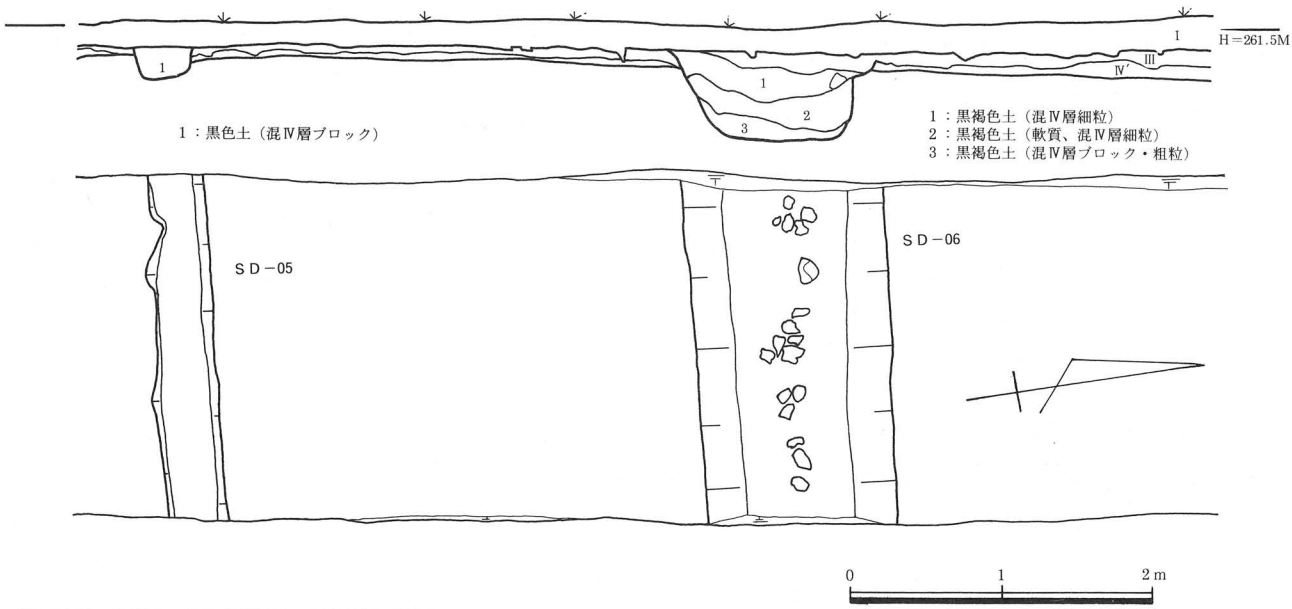
第３図　Ⅰ区　遺構実測図



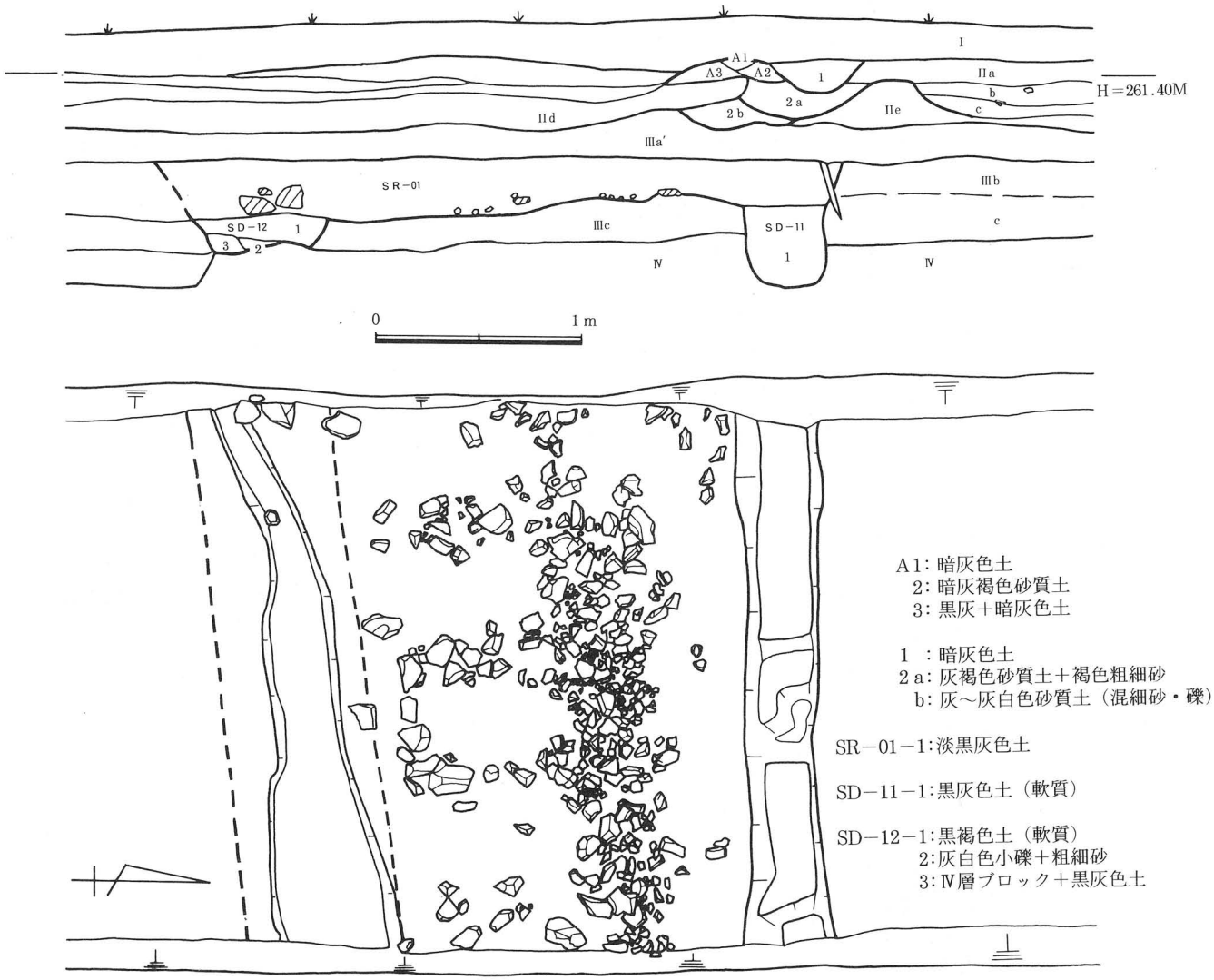
第４図　Ⅱ区遺構・北壁層序実測図



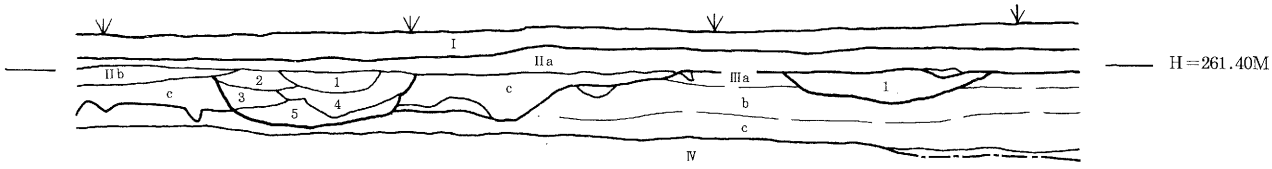
第５図　Ｖ区　遺構実測図



第６図　Ⅳ区　溝状遺構・西壁層序図



第７図　Ⅴ区　ＳＲ－01・西壁層序図

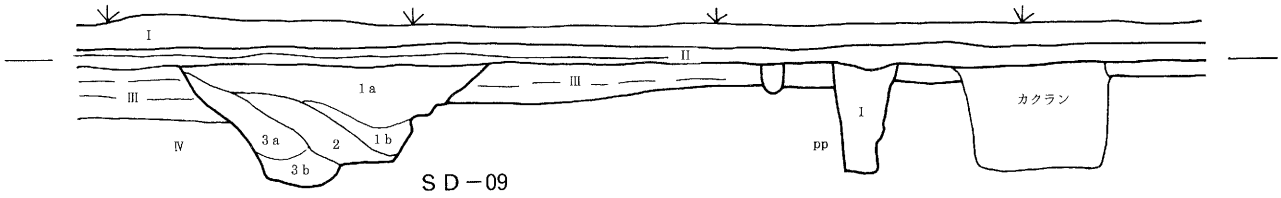


ＳＤ－10

ＳＤ

1：白色微細砂＋橙黄色細砂
2：暗灰色土（混灰白色細砂）
3：暗灰色土（混粗細砂）
4：暗灰色土
5：灰褐色土（混灰白色粘質微砂）

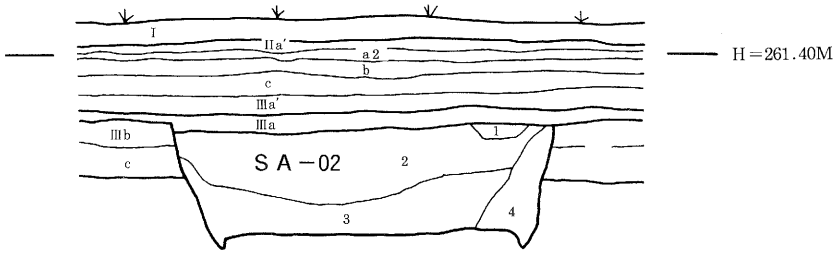
1：暗灰褐＋淡黒灰色土



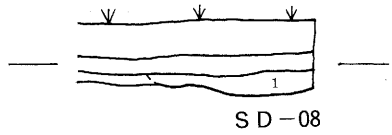
ＳＤ－09

1：暗灰色土

1a：暗灰～淡黒灰色土（混Ⅳ層細粒）
1b：淡黒灰色土（混Ⅳ層細粒）
2　：Ⅳ層ブロック＋黒灰色土
3a：黒灰色土（混Ⅳ層粗粒）
3b：黒灰色土



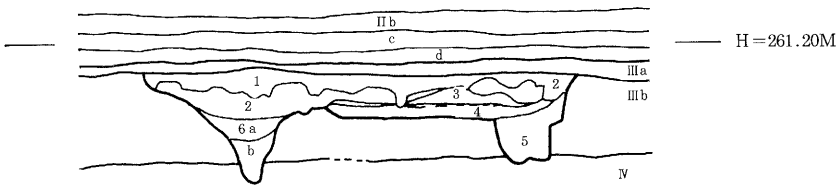
ＳＡ－02



ＳＤ－08

1：淡黒灰色土

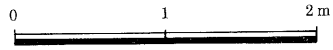
1：灰褐色土（混Ⅳ層粗粒）
2：黒褐色土＋Ⅳ層ブロック
3：黒灰色土＋Ⅳ層ブロック
4：黒灰色土（混Ⅳ層粗粒）



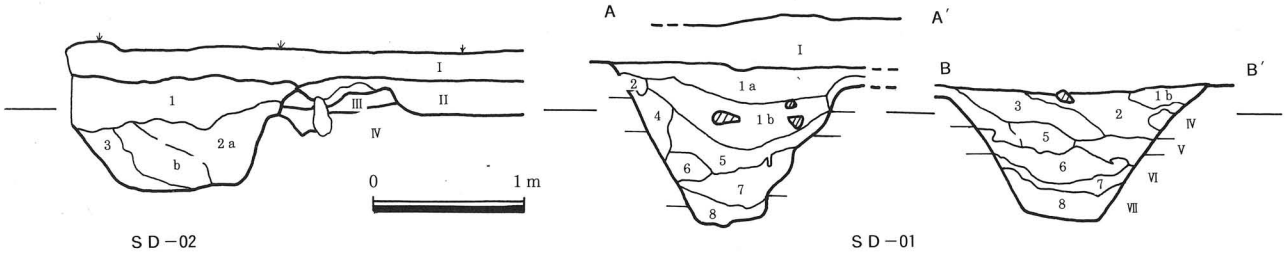
ＳＡ－01

1　：淡黒灰色土（淡焼土粒）
2　：淡橙黄色微砂質粘土（焼土）
3　：暗灰褐色土
4　：黒～黒灰色土（上面に炭）
5　：暗灰褐色土（軟質）
6a：淡黒灰～黒褐色土（混焼土）
b：黒褐色土（混焼土）

I　：灰～暗灰色土（水田耕作土）
IIa：暗灰色土（軟質）
b：灰～暗灰色砂質土（硬質）
c：灰～暗灰色土（旧耕作土）
IIIa′：淡黒灰色土（混Ⅳ層粗細粒）
IIIa：淡黒灰色土
b：黒灰色土
c：黒灰色土（硬質）
IV　：アカホヤ火山灰



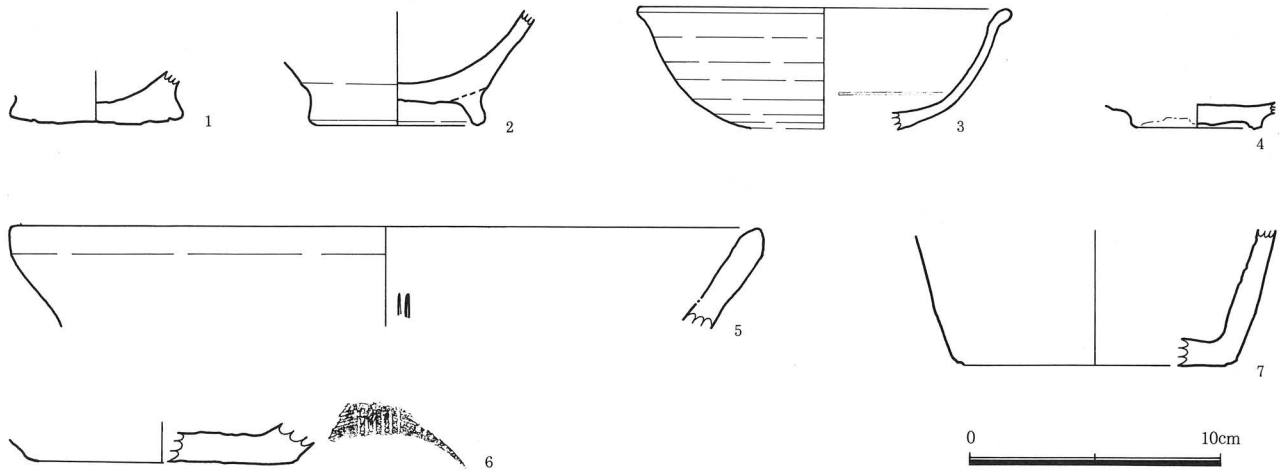
第８図　Ⅴ区　西壁ＳＤ－08～10，ＳＡ－02，東壁ＳＡ－01層序図



1　：黒褐色土（混Ⅳ層粗細粒）
2a：黒褐～黒色土
　b：同上
3　：黒褐色土（混Ⅳ層ブロック・粗細粒）

SD−01
1a：黒灰色土（混Ⅳ層ブロック）
　b：淡黒灰色土
2　：淡黒灰色土（軟質）
3　：黒褐色土（硬質）
4　：黒灰色土＋Ⅳ層ブロック・粗細粒
5　：黒褐色土（混Ⅳ～Ⅵ層ブロック）
6　：黒褐色＋褐色土
7　：暗灰褐色土
8　：黒褐～褐色土（混Ⅳ～Ⅵ層ブロック）

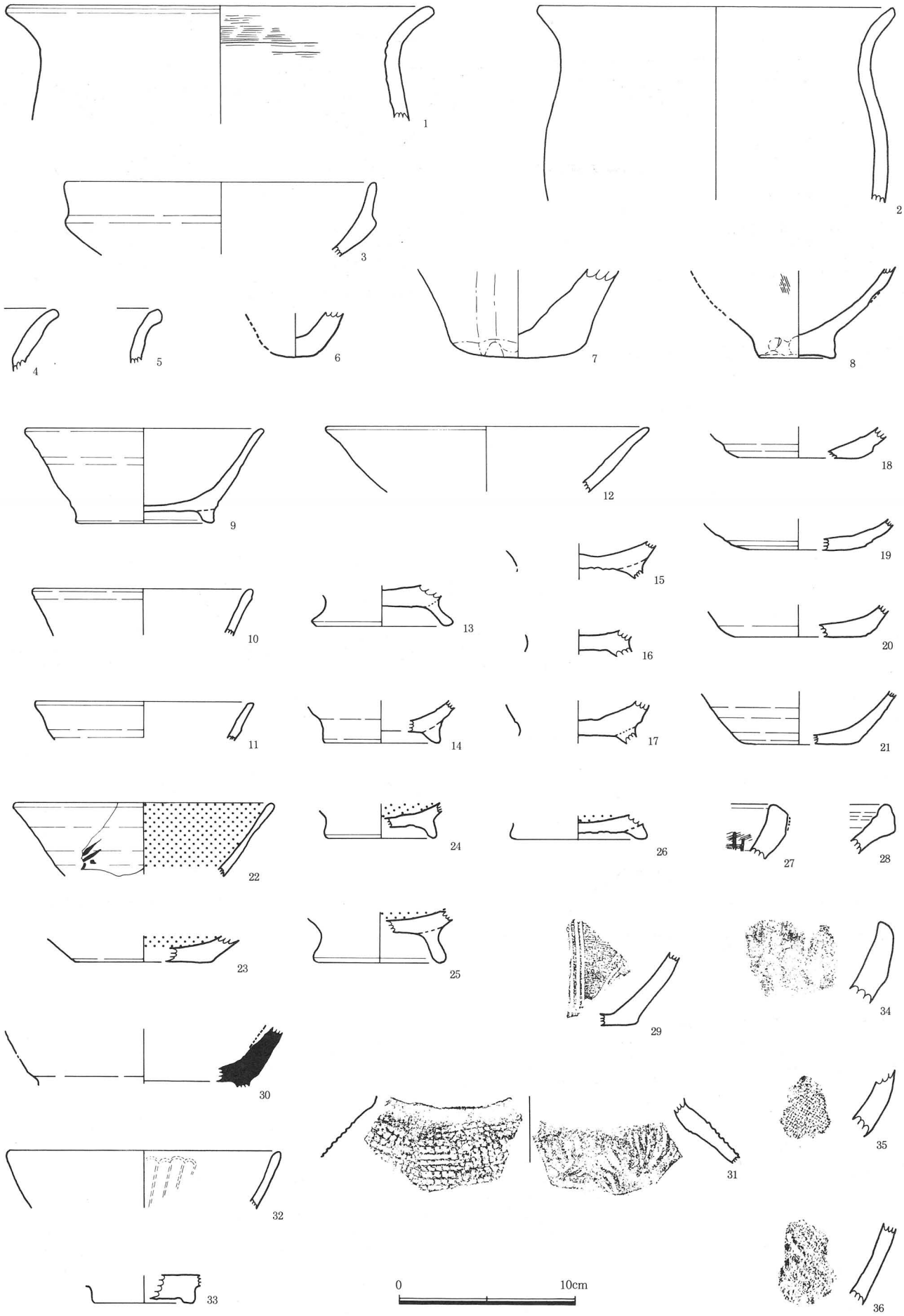
第９図　ＳＤ－02北壁・ＳＤ－01層序図



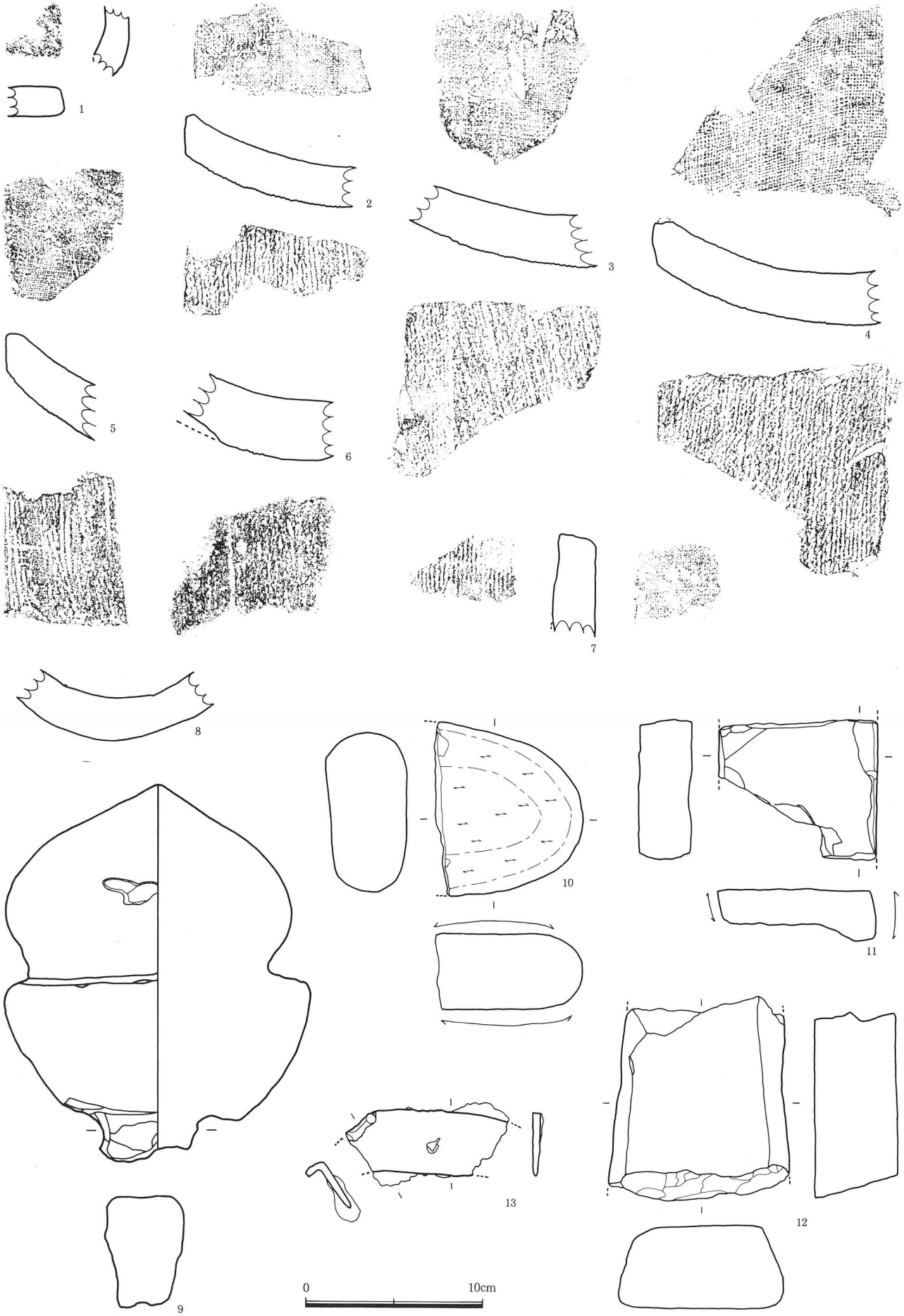
第10図　Ⅰ・Ⅱ区出土　土器類　実測図

表１　Ⅰ・Ⅱ区出土　土器類　観察表

番号	種類	遺構	器種	法量（cm）			調整			色調		焼成	胎土	備考
				口径	底径	高さ	内面	外面	底部	内面	外面			
第10図1	土師器	SD−01	埦	−	7.0	−	ナデ	ナデ	粘土紐	淡黄褐	淡黄褐	あまい	1～2ミリの茶褐色粒少量	
2	土師器	SD−04	高台付埦	−	7.0	−	ナデ	ナデ	ヘラ切り	淡黄	淡黄	ややあまい	良	
3	輸入青磁	SD−01	碗	15.0	−	−		ヘラケズリ		オリーブ	オリーブ	堅緻	淡灰白色、やや良	
4	輸入青磁	SD−04	碗	−	5.2	−			削り出し	オリーブ灰	オリーブ灰	堅緻	淡灰色	
5	中世国産陶器	SD−01	摺鉢	29.4	−	−	ナデ	ハケ		淡橙黄	淡橙黄	ややあまい	良	土師質
6	中世国産陶器	SD−01	摺鉢	−	10.1	−	ナデ	ヘラナデ	糸切り	淡黄白～淡灰白	淡灰	良	1～2ミリの砂粒少量	
7	中世国産陶器	SD−01	壷？	−	10.6	−	ミズヒキ	板ナデ	粗ナデ	淡茶褐	灰褐～黄褐	良好	良	外面は二次被熱



第11図　Ⅴ区出土遺物　実測図



第12図　Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ区出土　布目瓦・石器・石製品・鉄器　実測図

表2　V区出土遺物観察表

番号	種類	遺構	器種	法量(cm) 口径	底径	高さ	調整 内面	外面	底部	色調 内面	外面	焼成	胎土
第11図1	土師器	Ⅲ層	甕	24.2	—	—	ヨコハケナデ	ヨコハケ	—	黄褐	黄褐	ややあまい	1～2ミリの砂粒・赤褐色粒 少量
2	土師器	Ⅲ層	甕	20.3	—	—	摩滅	剝落	—	黄褐	黄褐	あまい	1～2ミリの石英粒 多量
3	土師器	Ⅲ層	壺	17.4	—	—	摩滅	摩滅	—	黄褐	黄褐	ややあまい	1～3ミリの砂粒 多量
4	土師器	Ⅲ層	甕	—	—	—	摩滅	摩滅	—	黄褐	黄褐	ややあまい	1～2ミリの砂粒 多量
5	土師器	Ⅲ層	甕	—	—	—	ナデ	ヨコハケ	—	淡黄褐～淡茶褐	茶褐	良	2～4ミリの茶褐色粒 少量
6	土師器	Ⅲ層	壺	—	2.4	—	ナデ	ハケ？	—	黄褐	黄褐	あまい	1～2ミリの砂粒 少量
7	土師器	Ⅲ層	壺	—	7.8	—	摩滅	タテケズリ	指頭ナデ	淡黄～淡黄褐	淡黄～淡黄褐	ややあまい	1～2ミリの石英粒 多量
8	土師器	Ⅲ層	甕	—	4.2	—	ナデ	剝落	—	淡黄褐～暗灰	淡黄～淡黄褐	良	1～2ミリの砂粒 少量
9	土師器	Ⅲ層	高台付椀	13.3	7.8	5.4	ナデ	ナデ	ヘラ切り	淡黄褐	淡黄褐	ややあまい	良
10	土師器	Ⅲ層	椀	12.4	—	—	ナデ	ナデ	—	淡灰褐	淡灰褐	良好	良
11	土師器	Ⅲ層	椀	12.2	—	—	ナデ	ナデ	—	黄褐	黄褐	良	赤褐色粒 少量
12	土師器	Ⅲ層	椀	20.4	—	—	摩滅	摩滅	—	淡黄褐	淡黄褐	あまい	良
13	土師器	Ⅲ層	高台付椀	—	8.2	—	ナデ	ナデ	—	灰～灰褐	淡黄～淡黄褐	良	1～2ミリの茶褐色粒 多量
14	土師器	Ⅲ層	高台付椀	—	6.6	—	ナデ	ナデ	—	淡橙黄	淡橙黄	良	良
15	土師器	Ⅲ層	高台付椀	—	7.2	—	摩滅	摩滅	—	淡灰茶	淡黄	あまい	良
16	土師器	SD−12	高台付椀	—	6.2	—	ナデ	ナデ	—	淡黄～橙黄	淡黄～橙黄	良	赤褐色粒 微量
17	土師器	SD−12	高台付椀	—	6.8	—	摩滅	ヘラケズリ	ヘラ切り	淡黄	淡黄褐	良	赤褐色粒 微量
18	土師器	Ⅲ層	椀	—	8.4	—	ナデ	ナデ	ヘラ切り	黄褐	淡茶黄	良	良
19	土師器	Ⅲ層	坏	—	7.8	—	ナデ	ナデ	ヘラ切り	淡黄	淡黄	ややあまい	良
20	土師器	Ⅲ層	坏	—	7.2	—	ナデ	ナデ	糸切り	淡黄白	淡黄白	あまい	良
21	土師器	Ⅲ層	椀	—	6.8	—	ナデ	ナデ	ヘラ切り	淡黄	淡黄	あまい	良
22	黒色土器	Ⅲ層	椀	—	—	—	ヘラミガキ	ナデ	—	黒	淡黄褐	良好	精良　墨書「光」か
23	黒色土器	Ⅲ層	椀	—	7,4	—	ヘラミガキ	ナデ	ヘラ切り	黒灰	淡黄褐	良	良
24	黒色土器	Ⅲ層	高台付椀	—	6.4	—	ヘラミガキ	摩滅	摩滅	黒灰	淡黄	良	良
25	黒色土器	Ⅲ層	高台付椀	—	7.6	—	ヘラミガキ	ナデ	ヘラ切り	黒	淡黄～淡黄褐	良	赤褐色粒 微量
26	黒色土器	Ⅲ層	高台付椀	—	7.6	—	ヘラミガキ	ナデ	ヘラ切り	黒	淡黄褐	良	良
27	中世国産陶器	SD−09	摺鉢	—	—	—	ナデ	—	—	淡黄灰	淡黄灰	良	赤褐色粒 少量
28	東播系須恵器	Ⅲ層	鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	—	灰～淡灰	淡灰白～淡黄白	良	1ミリ前後の砂粒 少量
29	中世国産陶器	Ⅲ層	摺鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	淡灰～淡灰青	淡灰～淡灰青	良	1～4ミリの砂粒・赤褐色粒 少量
30	須恵器	Ⅲ層	高台付椀	—	12.0	—	ナデ	ナデ	ナデ	淡青灰	灰～暗灰	堅緻	良
31	瓦質土器	Ⅲ層	甕	—	—	—	同心円タタキ	格子目タタキ	—	暗灰青	暗灰青	良好	精良、淡黄白色
32	輸入青磁	Ⅲ層	碗	15.4	—	—	—	剣先蓮弁	—	オリーブ灰	オリーブ灰	良好	
33	輸入青磁	SR−01	碗	—	5.8	—	—	—	削り出し	オリーブ灰	オリーブ灰	堅緻	
34	土製品	Ⅲ層	布痕土器	—	—	—	布痕	指頭圧	—	淡橙黄	淡橙黄	あまい	クサリ礫風化粒 少量
35	土器品	Ⅲ層	布痕土器	—	—	—	布痕	粗ナデ	—	黄褐	黄褐	良	1～4ミリの砂粒 少量
36	土製品	Ⅲ層	布痕土器	—	—	—	布痕	粗ナデ	—	淡橙黄	淡橙黄	良	赤褐色粒 少量

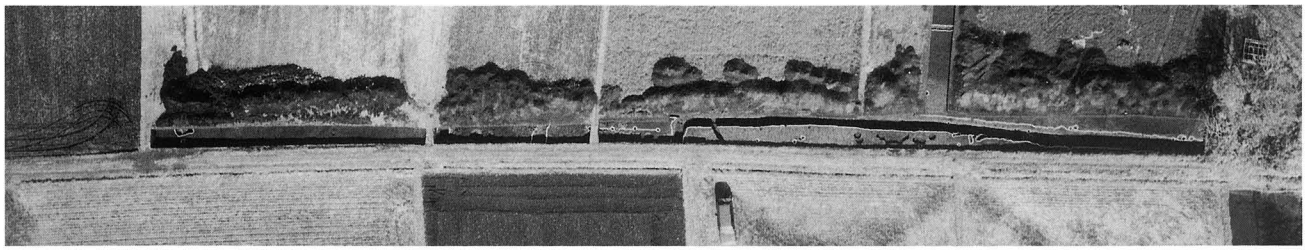
表3　Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ区出土　布目瓦・石器・石製品・鉄器　観察表

番号	種類	出土地・遺構	法量(cm)	調整ほか	色調 内面	色調 外面	胎土、石質ほか
第12図1	布目瓦	Ⅰ区　SD−01	3.2×3.4×1.7	凹面：布目、凸面：摩滅	淡黄	淡黄	精量、土師質
2	布目瓦	Ⅰ区　SD−01	9.6×5.2×2.3	布目　縄目	暗灰～暗青灰	暗灰～暗青灰	精良、須恵質
3	布目瓦	Ⅰ区　SD−01	9.8×9.8×2.7	布目　縄目	淡黄灰	淡黄灰	精良、土師質
4	布目瓦	Ⅱ区　SD−04	12.8×12.0×2.9	布目　縄目	淡灰	淡灰白	精良、須恵質
5	布目瓦	Ⅴ区　Ⅲ層	6.3×8.8×2.6	布目　縄目	淡黄～淡茶黄	淡黄～淡茶黄	精良、土師質
6	布目瓦	Ⅰ区　SD−01	8.8×6.6×2.6	布目　縄目	淡黄白	淡黄褐	精良、土師質
7	布目瓦	Ⅴ区　Ⅲ層	5.6×6.0×2.5	布目　縄目	灰～淡灰	灰～淡灰	精良、土師質（硬）
8	布目瓦	Ⅰ区　SD−01	11.1×6.2×2.3	布目　タタキ	淡黄～淡黄白	淡黄～淡黄白	精良、土師質、摩滅
9	五輪塔	Ⅱ区　SD−04	20.3×17.2	差込式	—		軽石製
10	砥石	Ⅰ区　SD−01	8.3×9.8×4.5	2面使用	—		砂岩
11	砥石	Ⅰ区　SD−01	8.9×7.8×2.9	4面使用？	—		砂岩
12	砥石	Ⅰ区　SD−01	10.7×10.1×4.7	4面使用	—		砂岩
13	鉄鎌	Ⅴ区　Ⅲ層	9.2×1.8×0.4	—	—		

調査地周辺　航空写真

図版 2

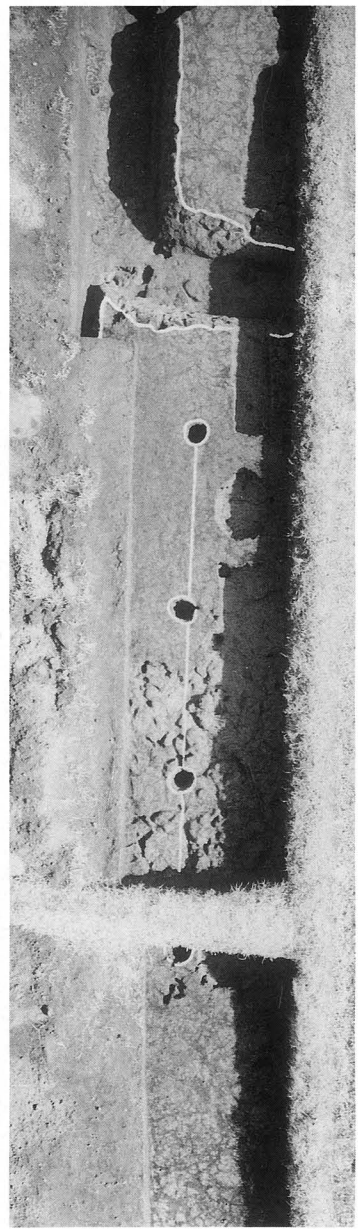
調査区　全景（右が北）



Ⅰ区　全景（上が北）

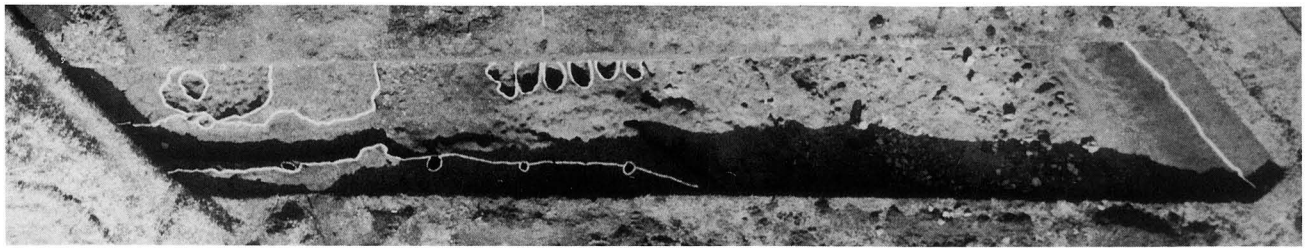
ＳＤ－01　掘込状況（東から）

ＳＢ－01とＳＤ－01の西コーナー（西から）



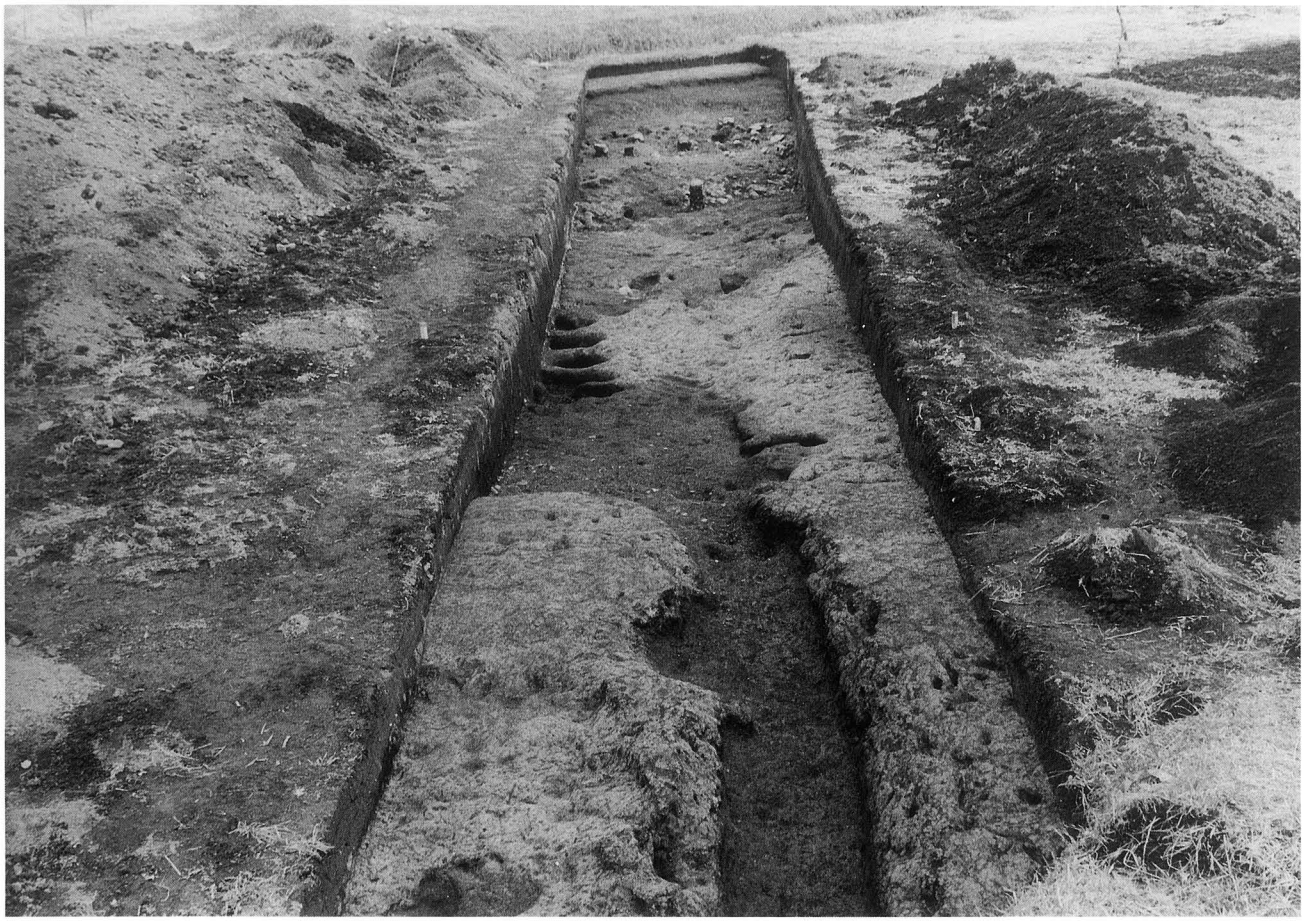
同左　（左が北）

図版 4



II区　全景（上が北）

II区
遺構検出状態
（西から）

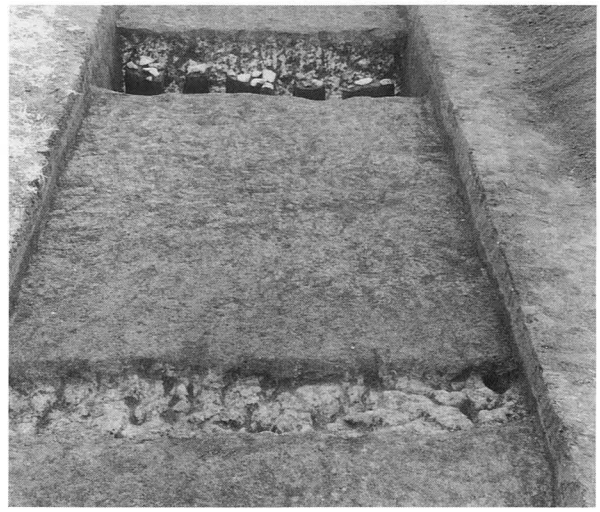


II区　完掘全景（西から）

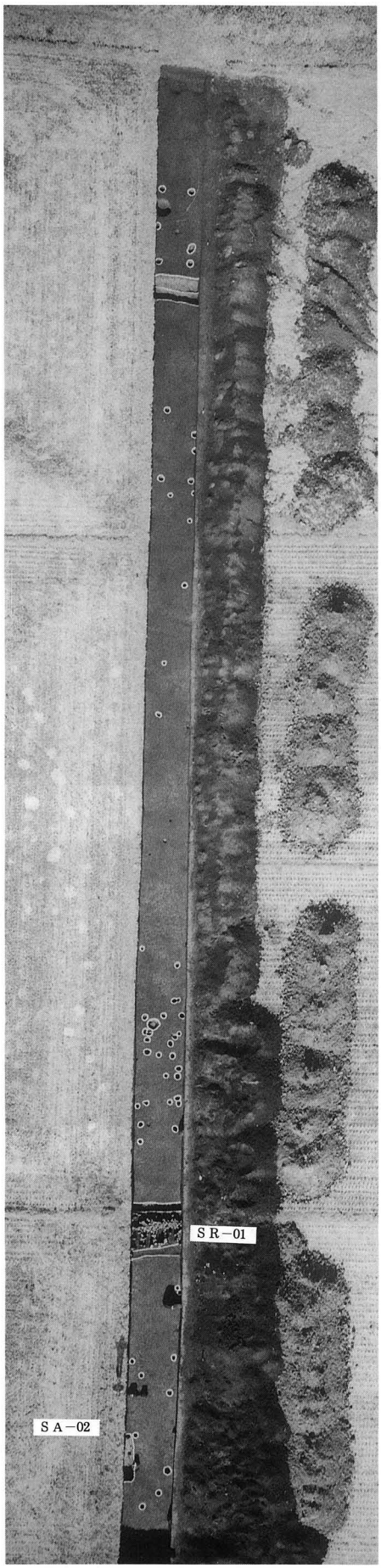
II区　完掘全景（東から）

Ⅳ区　全景（右が北）

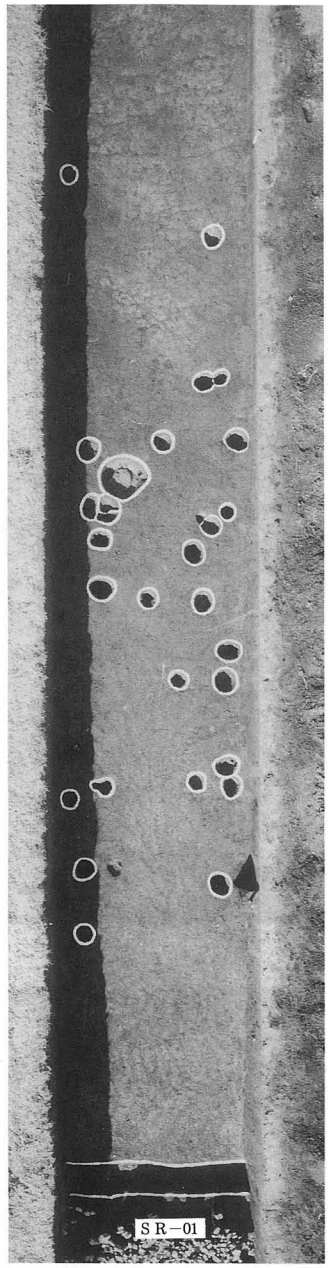
Ⅳ区
ＳＤ－05と
ＳＤ－06
掘込状態
（南から）



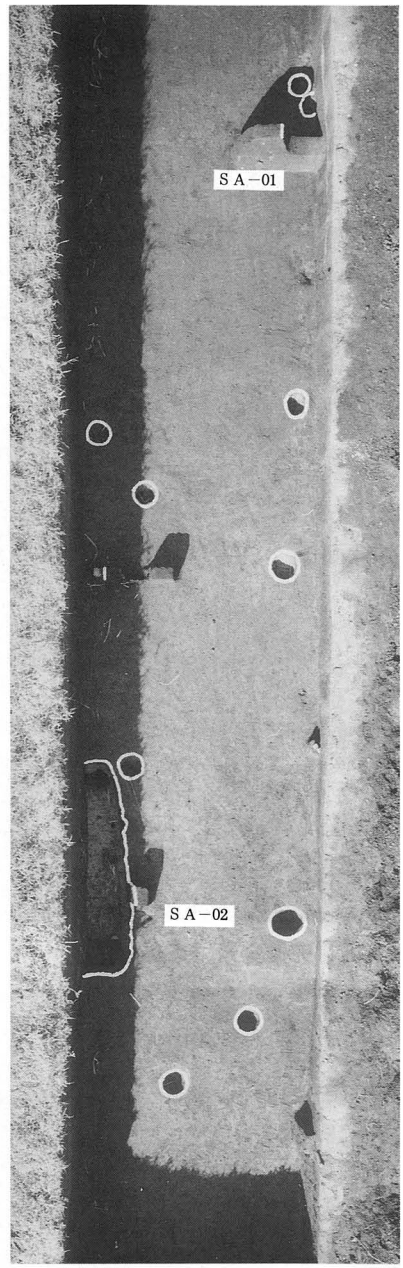
図版 6



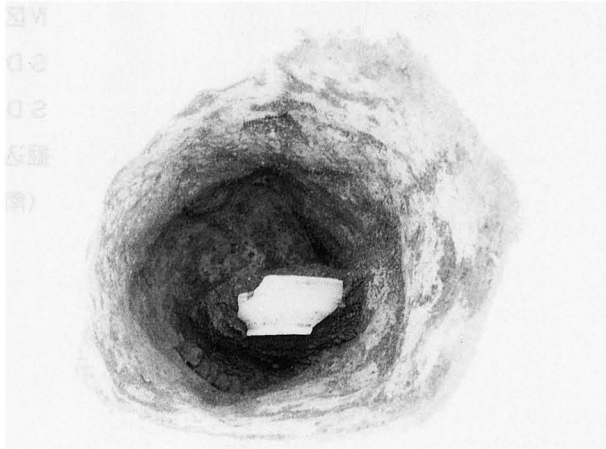
Ｖ区　全景（上が北）



ＳＲ－01の北側　柱穴群

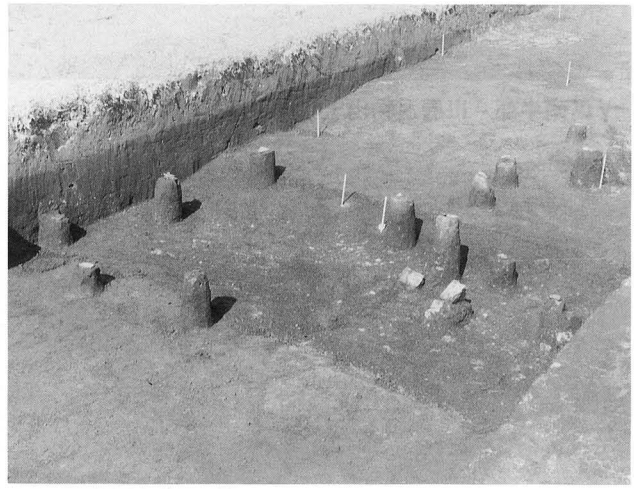


ＳＡ－01・02周辺



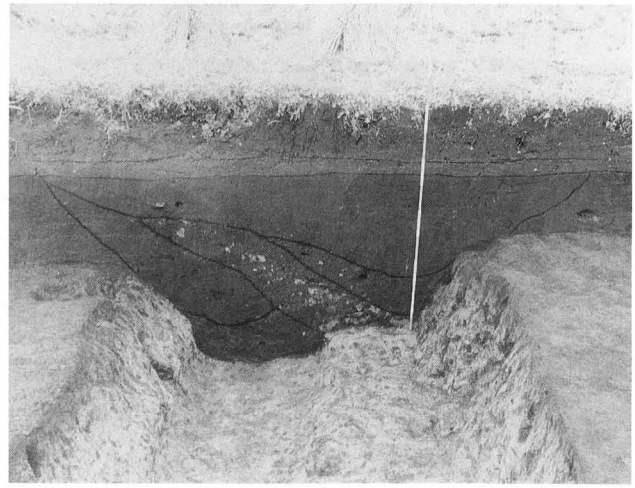
柱穴内　遺物出土状態

Ⅴ区北半部　Ⅲ層遺物出土状態（南東から）



ＳＤ－09上面　遺物出土状態（南東から）

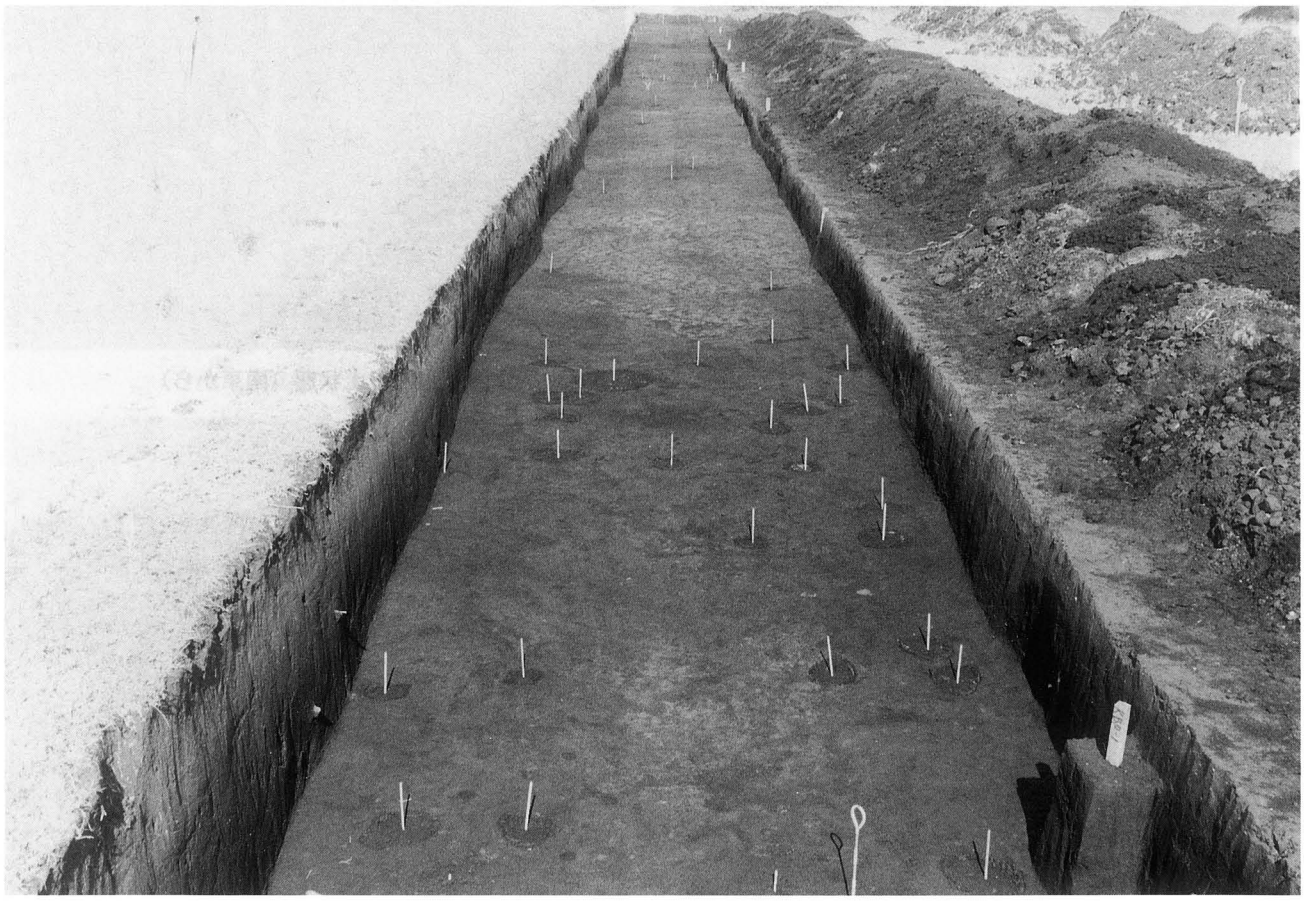
同上（東から）



ＳＤ－09完掘、西壁層序

図版 8

Ⅴ区南半部　Ⅲ層遺物出土状態（南東から）



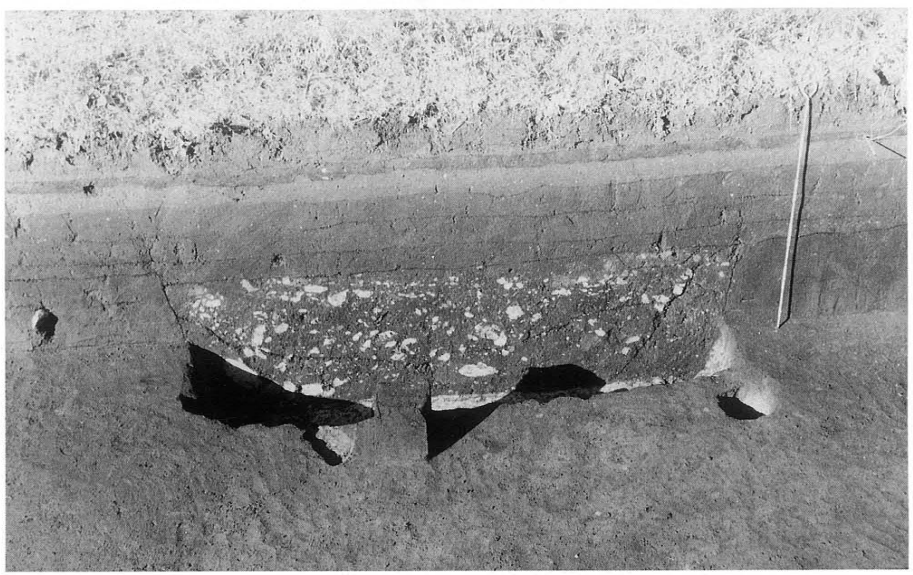
北半部　遺構検出状態（南から）

Ⅴ区　ＳＲ－01と側溝　検出状態（東から）

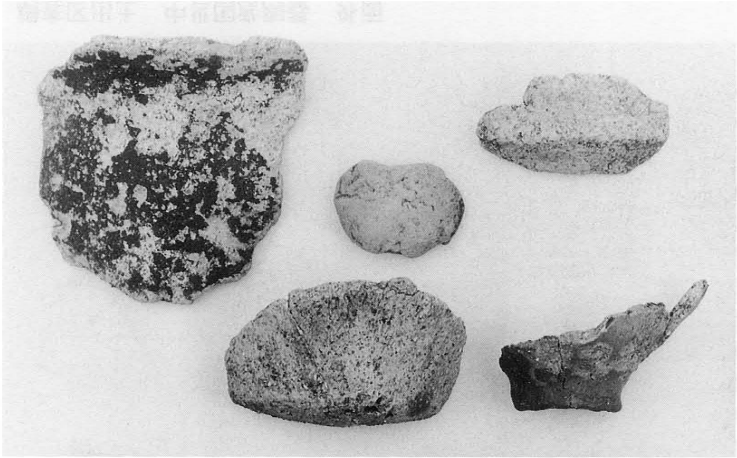
同上　完掘全景、西壁層序（東から）

Ｖ２区南半　全景（南から）

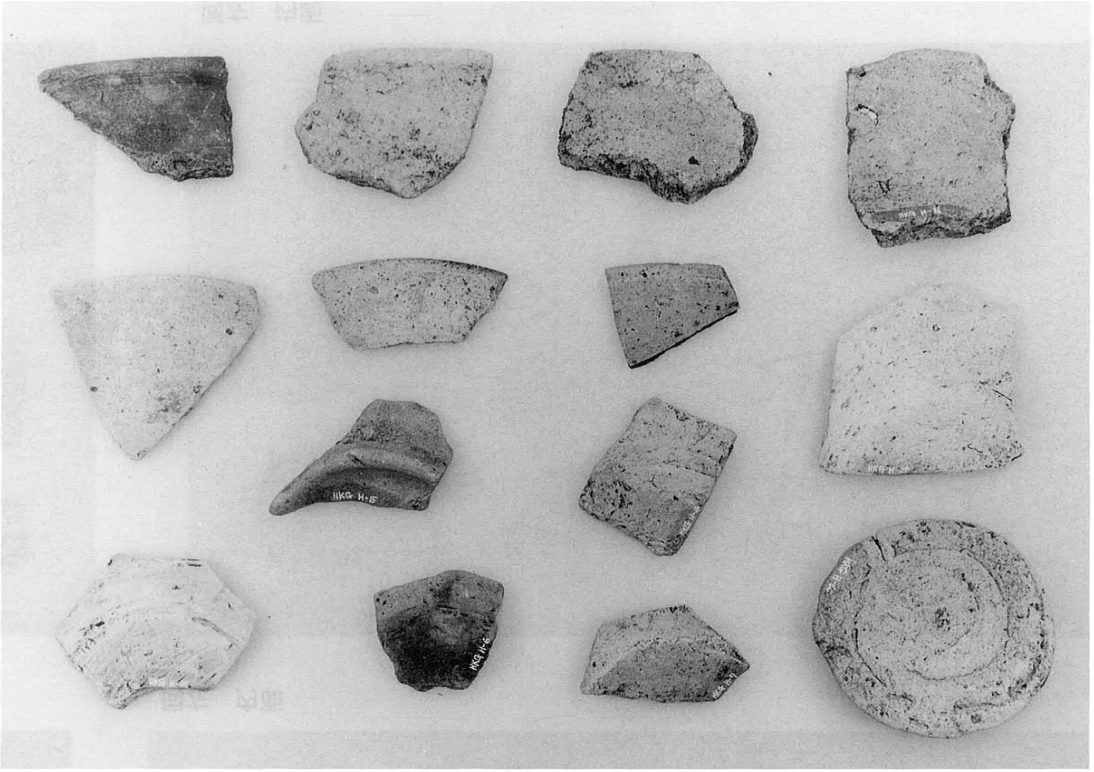
ＳＡ－01　断面層序（南西から）



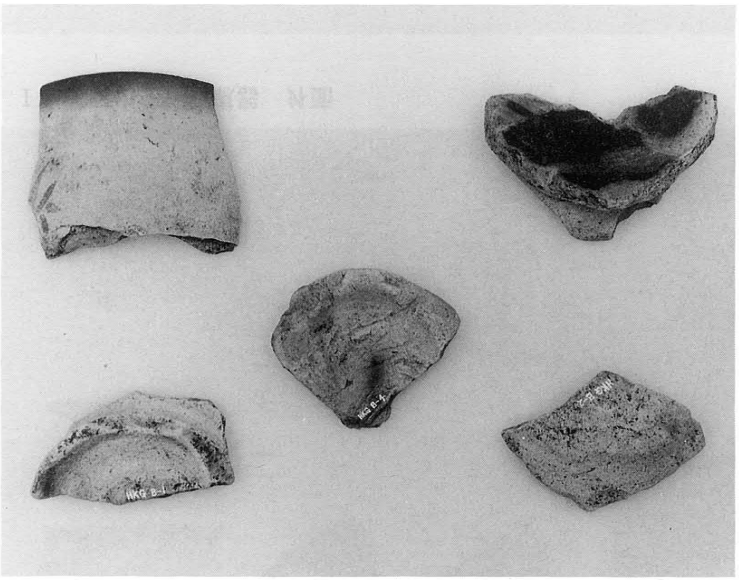
ＳＡ－02　断面層序（東から）



Ⅴ区出土　土師器（1）

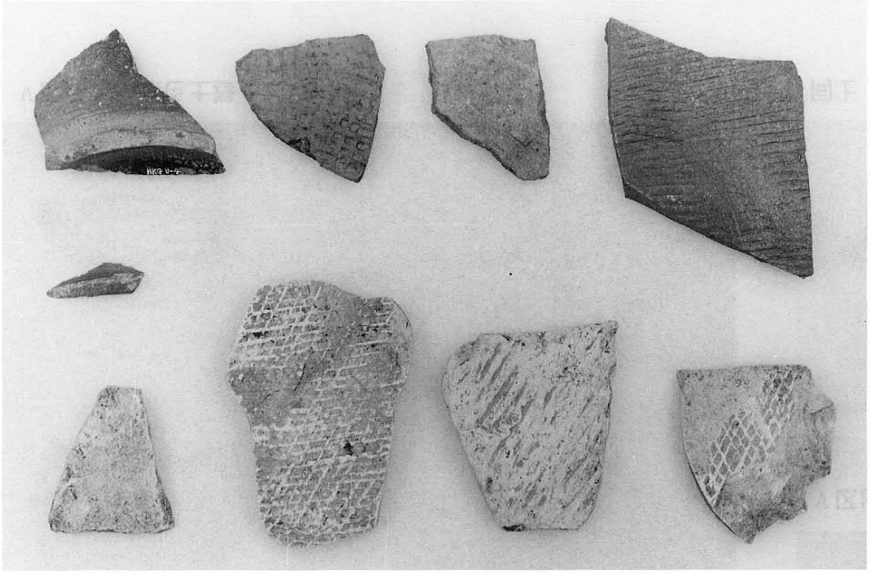


Ⅴ区出土　土師器（2）



Ⅴ区出土　黒色土器

同上（3）

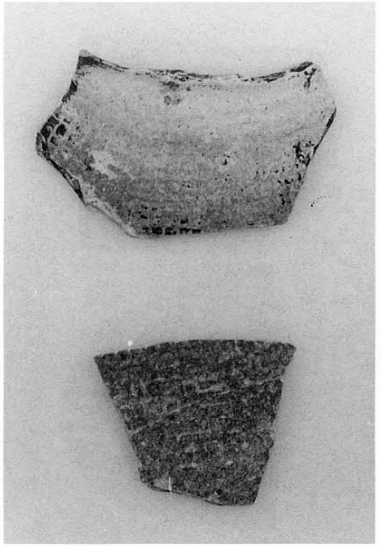


Ⅰ・Ⅴ区出土　須恵器　外面

同左　内面

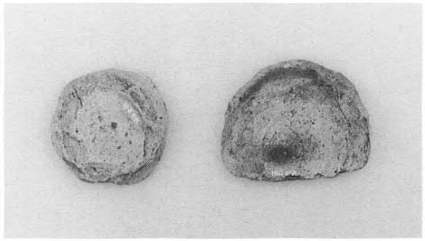
調査区出土　中世国産陶器　外面

同左　内面

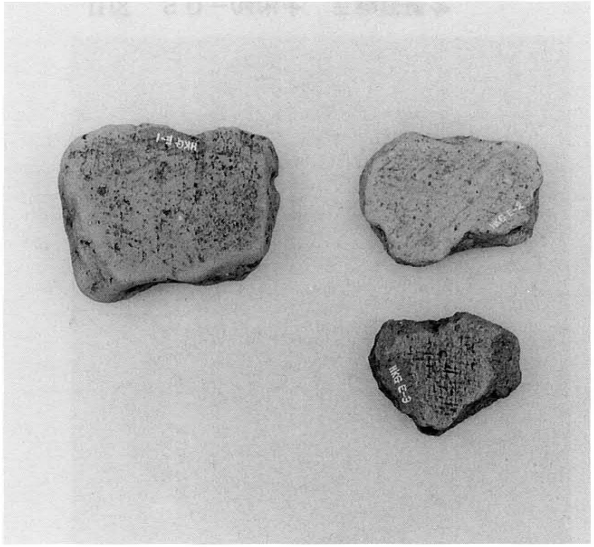


Ｖ区出土　瓦質土器　外面

同左　内面



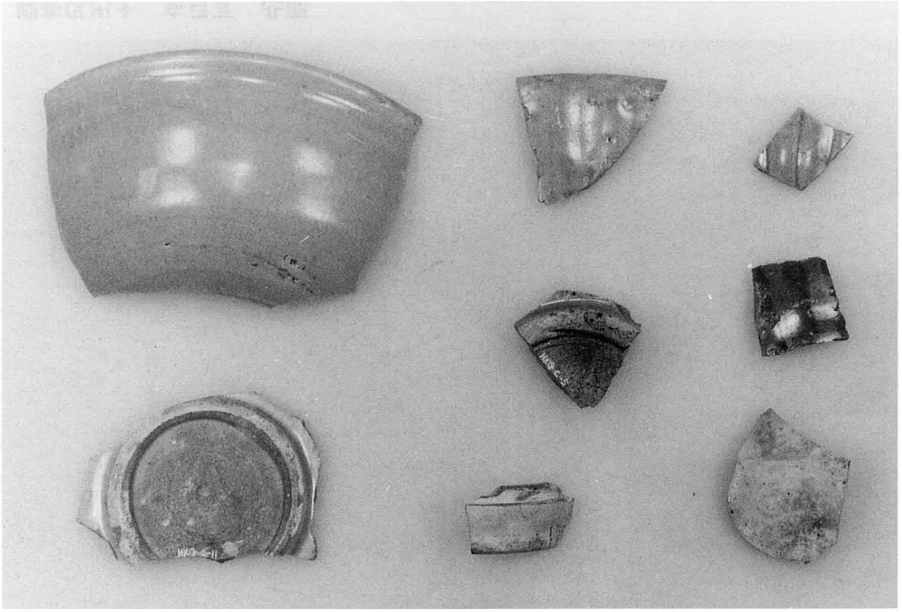
Ｖ区　ＳＤ－12出土　土師器　外底



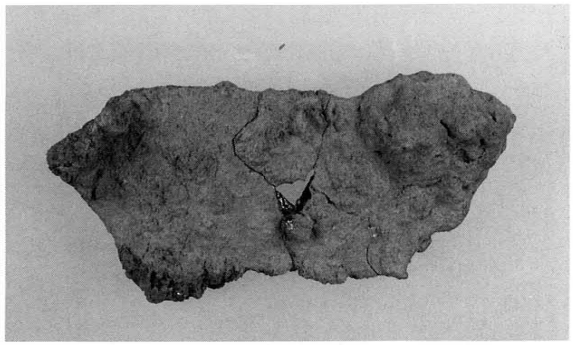
Ｖ区出土　布痕土器　内面

調査区出土　布目瓦　凸面

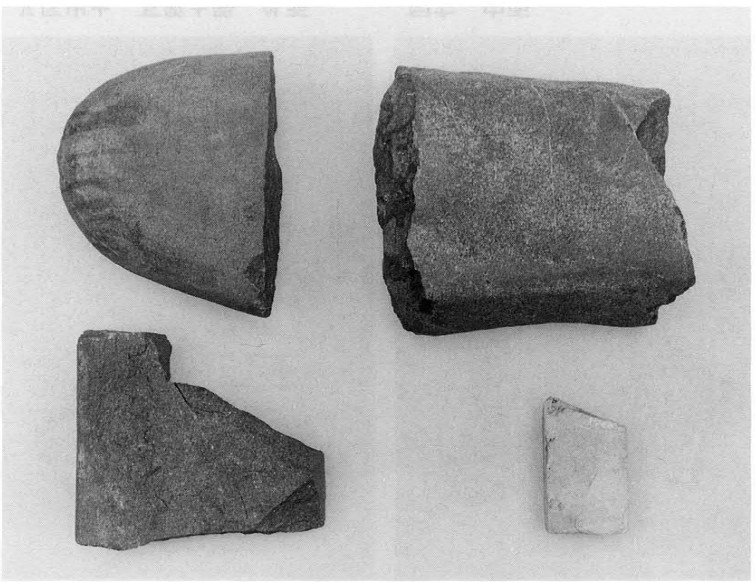
同左　凹面



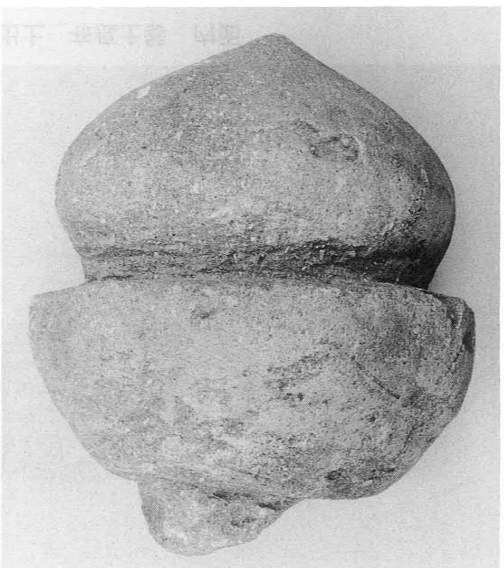
調査区出土　輸入陶磁器



Ｖ区出土　鉄鎌



Ｉ区　ＳＤ－01出土
砥石



II区　ＳＤ－04出土　五輪塔残欠

報告書抄録

ふりがな	こきばる　わらび　くみざこ　じぬしばる　ろくぶいち　くらもと　ちゅうまん　ほうこうじ					
書名	小木原遺跡群蕨地区(C・D地区)・久見迫B地区・地主原地区、原田・上江遺跡群六部市遺跡、蔵元・中満・法光寺遺跡Ⅰ・Ⅱ					
副書名	上江・池島地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅱ					
シリーズ名	えびの市文化財調査報告書第16集					
編集者	中野和浩					
編集機関	えびの市教育委員会					
所在地	宮崎県えびの市大字大~~名~~明司2146－2　TEL 0984－35－2168					
発行年月日	1996年3月31日					
	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
小木原遺跡群	えびの市大字上江字蕨・久見迫・地主原			880809～890202	7,000㎡	県営圃場整備
六部市遺跡	えびの市大字上江六部市			901204～910208	2,500㎡	〃
蔵元遺跡	えびの市大字上江字蔵元			921116～930311	2,100㎡	〃
中満遺跡	えびの市大字上江字中満				4,500㎡	〃
法光寺遺跡Ⅰ	えびの市大字上江字法光寺				2,700㎡	〃
法光寺遺跡Ⅱ	えびの市大字上江字法光寺			931111～931208	756㎡	〃

所収遺跡名	主な時代	主な遺構	主な遺物
小木原遺跡群蕨C・D地区	古墳時代 中世	地下式横穴基22基 溝状遺構	刀剣、鉾、鉈、鏃、刀子、土師器 土師器
久見迫B地区	古墳時代 室町～近世	地下式横穴基13基、土壙基2基 土壙基1基、柱穴1000基、溝状遺構	刀剣、鏃、刀子、轡 土師器、輸入陶磁器、国産陶磁器
地主原地区	近世～近代	柱穴、溝状遺構	国産陶磁器
六部市遺跡	中世	掘立柱建物跡9軒、竪穴状遺構16基	土師器
蔵元遺跡	中世	掘立柱建物跡、竪穴状遺構1基、石組遺構1	土師器
中満遺跡	近世	堀立柱建物跡	国産陶磁器
法光寺遺跡Ⅰ	平安～中世	掘立柱建物跡15棟、竪穴状遺構1基	墨書土器、布目瓦、土師器、陶磁器
法光寺遺跡Ⅱ	平安～中世	柱穴、竪穴状遺構2基、溝状遺構、石敷道路	墨書土器、布目瓦、土師器、鉄鎌

えびの市埋蔵文化財調査報告書　第16集

小木原遺跡群蕨地区（ＣＤ地区）・久見迫Ｂ地区・地主原地区、原田上江遺跡群六部市遺跡、蔵元・中満・法光寺遺跡Ⅰ・Ⅱ

上江・池島地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

1996

編集・発行　えびの市教育委員会
えびの市大字大明司2146-2

印　　刷　㈱長崎印刷
西諸県郡高原町大字後川内